

緊急呼出電話システム
ガイドホンCD7D

総合説明書

安全上の注意

安全に正しくお使いいただくために必ずお読みください。

絵表示について

この工事説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただきあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。



警告

人が**死亡**または**重傷**を負う可能性が想定される内容です。

機器本体から**煙**が出ていたり、**へんな臭い**がする場合は、すぐに電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてご使用を中止し、販売店もしくは最寄のご相談窓口までご連絡下さい。

機器本体から**異常音**が出ていたり、機器本体やコード類が**異常に高温**になっている場合はすぐに電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてご使用を中止し、販売店もしくは最寄のご相談窓口までご連絡下さい。

上記以外でも、機器をご使用中に**異常**と思われる状態になった場合には、すぐに電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてご使用を中止し、販売店もしくは最寄のご相談窓口までご連絡下さい。

機器に表示された電源電圧以外の電圧でご使用になりますと、火災、感電、故障の原因となり危険ですので絶対におやめ下さい。

タコ足配線にしてご使用になりますと、火災の原因になりますので絶対におやめ下さい。

電源コードを破損し断線させたり、内部電線を露出させたままご使用になりますと、火災、感電、故障の原因となり危険ですので絶対におやめ下さい。

機器本体の上に花瓶、コップ、化粧品、植木鉢、薬品や水の入った容器、小さな金属物をのせたままご使用になりますと、こぼれたり、中に入った場合、火災、感電、故障の原因となり危険ですので絶対におやめ下さい。

機器本体をふる場や加湿器のそばなど、湿気が多いところに置いたり、水がかかる恐れのある場所でご使用になりますと、火災、感電、故障の原因となり危険ですので絶対におやめ下さい。

機器本体内に水や金属、紙などの燃えやすい物が入った場合に、そのままご使用になりますと、火災、感電、故障の原因となり危険です。万一異物が入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてご使用を中止し、販売店もしくは最寄のご相談窓口までご連絡下さい。

機器本体を倒したり逆さまにしたままご使用になりますと、火災、感電、故障の原因となり危険ですので絶対におやめ下さい。

電源コードを傷つける、加工する、無理に曲げる、無理に引っ張る、ねじる、束ねる、コードの上に重いものをのせることなどは、電源コードを断線させ火災、感電、故障の原因となり危険ですので絶対におやめ下さい。

お客様ご自身で機器本体を分解し、機器内部の清掃、修理、点検、改造を行うことは火災、感電、故障の原因となり危険ですので絶対におやめ下さい。

機器本体に水をかけたり、通風孔などの開口部から金属類や紙など燃えやすいものを侵入させないで下さい。また機器本体を倒したり、落下させたり、物をぶつけるなどの衝撃を与えないで下さい。火災、感電、故障の原因となり危険ですので絶対におやめ下さい。

ぬれた手で電源コードや電源プラグにさわったり、機器を操作されますと感電の原因となり危険ですので絶対におやめ下さい。

機器内の電池交換等をお客様ご自身で行ったり、機器に指定されていない電池を使用しますと火災、感電、故障の原因となり危険ですので絶対におやめ下さい。

周辺装置を架空配線する場合は、避雷器など十分な保護対策を行ってください。



注意

人が**傷害**を負う可能性が想定される内容、および**物的損害**のみ発生が想定される内容です。

機器本体を規定以外の設置方法(仰向け、横倒し、逆さまなど)でご使用にならないでください。通風孔をふさぎ、機器内部に熱がこもり火災、故障の原因となります。

機器本体を収納箱や本棚など風通しの悪い場所に置いてご使用にならないで下さい。機器内部に熱がこもり火災、故障の原因となります。

機器本体を直接じゅうたんの上や、布団の上に置いて使用しないで下さい。機器内部に熱がこもり火災、故障の原因となります。

機器本体にテーブルクロスなどの通気性の悪いカバーを掛けてご使用にならないで下さい。通風孔をふさぎ、機器内部に熱がこもり火災、故障の原因となります。

機器本体を屋外や直射日光の当たるところ、冷暖房機の吹き出し口の前などに置いてご使用にならないで下さい。火災・故障の原因となります。

機器本体をゴミやホコリの多い場所、または金属粉や有毒ガスの発生する場所に置いてご使用にならないで下さい。火災・故障の原因となります。

機器本体をテレビ、ラジオ、スピーカや無線機などの強い磁気、電波を発生させる機器のそばに置いてご使用にならないで下さい。故障・誤動作の原因となります。

機器本体に乗らないで下さい。倒れたり破損して、けがをする場合があります。

長時間機器をご使用にならない場合には電源を切り、安全のためにコンセントから電源プラグを抜いて下さい。

機器本体に高温の発熱体や熱器具を近づけないで下さい。溶けて発火したり、変色する場合があります。

電源コードを高温の発熱体や熱器具を近づけないで下さい。コードの被覆が溶けて火災、感電の原因となる場合があります。

機器を壁掛け運用時、振動や衝撃等によって落下しないようにしっかりと壁に固定して下さい。機器が落下して、けがをする場合があります。

機器本体をぐらついた台の上や傾いた所、また振動や衝撃を受けやすい場所には置かないで下さい。落ちたり倒れたりして、けがをする場合があります。

電源プラグは、コンセントに確実に差込んで下さい。電源プラグの刃に金属が触れると、火災、感電の原因となる場合があります。

コンセントから電源プラグを抜く際は、必ず電源プラグ本体を持って抜くようにして下さい。コードを引っ張りますと、コードが傷つき断線したり、火災、感電の原因となる場合があります。

機器本体を移動させる場合には、電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続線ははずしたことを確認の上、行ってください。コードを傷つけますと、火災、感電の原因となる場合があります。

お願い

本製品が本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招くことが想定される内容です。

ご使用にあたり次のお願いをお守り下さい。

機器本体をハンジシ、シンナー、アルコール等で拭かないでください。変色や変形、破損の原因となります。汚れがひどい場合には、布にうすめた中性洗剤を含ませ、よく絞ってから拭き取り、その後かわいた布で拭くようにして下さい。

機器本体を落としたり、強い衝撃を与えないようにして下さい。故障の原因になります。

機器本体をテレビ、ラジオ、スピーカや無線機などの強い磁気、電波を発生させる機器のそばに置かないで下さい。故障・誤動作の原因となる場合があります。

お客様が用意された機器を、本システムに接続してご使用になる場合には、あらかじめ販売店もしくはご相談窓口にご確認ください。

本文で、機器とは主装置などの全ての装置を示します

目次

【共通説明編】

1. 概要	7
2. 各部の名称とはたらき	7
3. システム構成	9
3.1 システム構成図	9
3.2 システム構成品と機能説明	10
4. システム仕様	11
5. 外形寸法および重量	11
6. システム定格	12
7. 接続(周辺)機器の規格	12

【工事説明編】

8. 設置工事	14
8.1 手配品の確認	15
8.2 お客様要求仕様の確認	15
8.3 工事依頼書の確認	15
8.4 設置場所の確認	15
8.5 配線・設置工事	16
8.5.2 本体カバーの取り外し	16
8.5.4 アース線の接続、および商用電源への接続	17
8.5.5 CD7D呼出電話機の取付	18
8.5.6 CD7Dスイッチボックスの取付	19
8.5.7 配線を延長する場合	20
8.5.8 電話回線、電話装置の接続	21
8.5.9 呼出電話機の接続	22
8.5.10 スwitchボックスの接続	23
8.5.11 タイマースイッチ/切替スイッチの接続	23
8.5.12 各種増設	24
8.5.13 主装置内配線ケーブルの集線	26
8.6 電池の取付	26
8.6.1 電池の収納	26
8.6.2 電池の接続	26
9. 各種設定	27
9.1 電源投入	27
9.1.1 音声の録音再生、およびシステムデータ設定・確認準備	27
9.2 音声の録音・再生	28
9.2.1 録音音声の録音方法	28
9.2.2 録音音声の再生方法	28
9.2.3 録音をやり直す場合	28
9.3 システムデータの設定・確認	29
9.3.1 システムデータ設定作業	29
9.3.2 システムデータ確認作業	30

9.3.3 システムデータの設定・確認の終了.....	31
10. 設置・配線チェック.....	33
11. 開通試験の実施.....	34
12. ISDN回線(INSネット64)を使用する場合.....	35
12.1 構成品の確認.....	35
12.2 接続のしかた.....	35
12.2.1 ISDN回線の接続.....	35
12.2.2 アナログ端末の接続.....	36
12.3 動作の確認.....	36
12.3.1 ISDN端末の確認.....	36
12.3.2 動作確認.....	36
13. CD6N主装置への呼出電話機の接続.....	37
13.1 屋外電話機としての接続.....	37
13.2 屋内電話機としての接続.....	37
[取扱説明編]	
14. 機能および動作概要.....	39
14.1 ガイドホン機能.....	39
14.1.1 屋外電話機から連絡先(管理センター、警備会社等)を呼出す場合.....	39
14.1.2 連絡先から屋外電話機を呼び出す場合.....	40
14.2 インターホン機能.....	41
14.2.1 屋外電話機から屋内電話機を呼び出す場合.....	41
14.2.2 連絡先から屋外電話機を呼び出す場合.....	41
14.2.3 屋内電話機から屋外電話機を呼び出す場合.....	41
14.3 センサー通報動作.....	42
14.4 テレコン機能による制御.....	42
14.5 オンラインによるシステムデータの設定・変更および確認.....	43
14.5.1 オンラインによるシステムデータの設定・変更.....	43
14.5.2 オンラインによるシステムデータの確認.....	44
14.5.3 システムデータの設定・変更および確認の終了.....	45
15. 保守.....	46
15.1 電池の交換.....	46
15.1.1 停電電池.....	46
15.1.2 メモリ電池.....	47
15.2 アフターサービスについて.....	48
16. FAQ.....	49

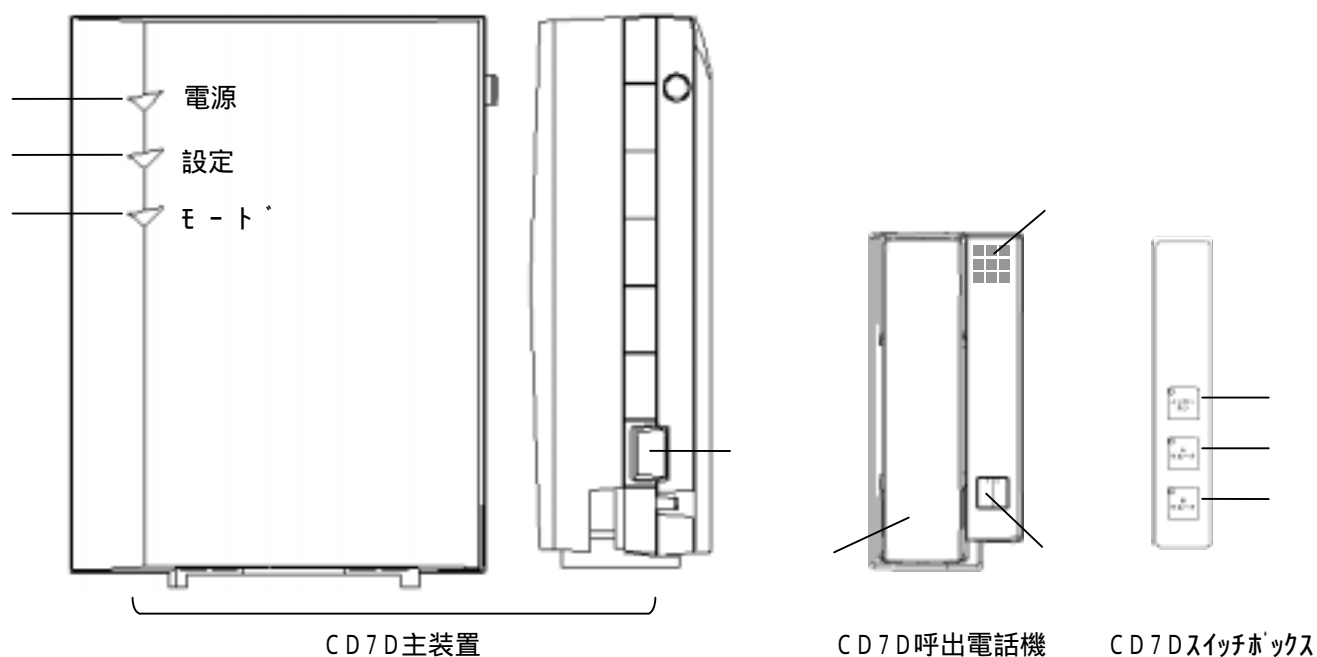
共通説明編

1. 概要

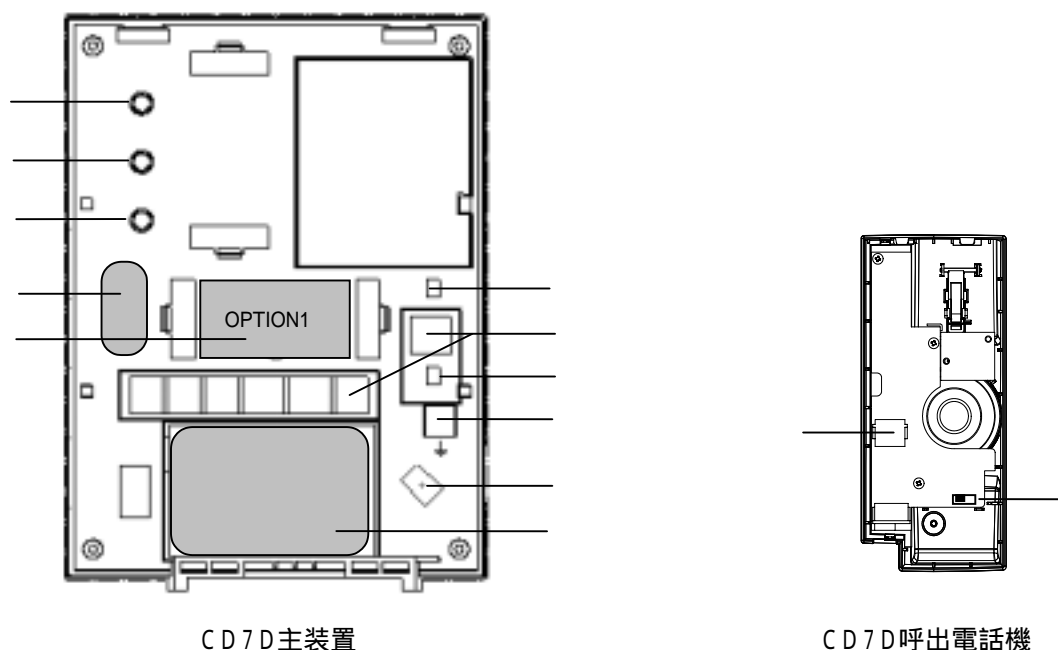
ガイドホンCD7Dは、電話回線に接続して使用し、CD(現金自動支払機)、ATM(現金自動預金払出機)等の無人機器の故障時、操作上の問い合わせ時に屋外電話機を操作することにより、あらかじめ登録されている連絡先に自動ダイヤルして緊急連絡を行う装置です。連絡先はAグループ・Bグループの2グループのいずれかを指定でき、それぞれ最大3宛先を設定可能です。グループの切替はスイッチボックスや市販切替スイッチ等で行います。また屋外電話機と屋内電話機の相互通話を行うことが出来ます。非常通報機能を有し、外部接続されたセンサー等の起動により、あらかじめ登録された最大3宛先に非常通報を行うことができます。

2. 各部の名称とはたらき

外観図



内観図



CD7D主装置外観

電源ランプ

AC100Vおよび停電バックアップ用電池から給電されている時に緑色点灯します。

設定ランプ

設定スイッチを設定側に切替えると赤色点灯します。

インターホンランプ

外部切替入力でインターホンモードを選択すると、赤色点灯します。A/Bグループ時は消灯します。

電源スイッチ

AC100Vを入切するスイッチです。本スイッチがOFFでも停電バックアップ用電池から給電されます。

CD7D呼出電話機外観

使用中ランプ

子機の受話器を上げると赤色に点灯します。

受話器

通話を行うための受話器です。

呼出ボタン

受話器を上げてから押すと、連絡先を呼出します。

CD7Dスイッチボックス外観

インターホンボタン

CD7D主装置をインターホンモードに設定するボタンです。

1秒以上押すとランプが赤色点灯します。

Aグループボタン

CD7D主装置をAグループモードに設定するボタンです。

1秒以上押すとランプが赤色点灯します。

Bグループボタン

CD7D主装置をBグループモードに設定するボタンです。

1秒以上押すとランプが赤色点灯します。

CD7D主装置内観

メモリバックアップ用電池

録音声をバックアップする電池です。添付のニッカド電池パックを本位置に貼り付けます。

オプションユニット

屋外電話機等を増設する場合、オプションのTBUユニットを実装します。

設定スイッチ

システムデータ設定時に切替えます。

通常は「運用側」、設定時は「設定側」に切替えます。

接続用コネクタ

CD7DスイッチボックスやCD7D呼出電話機および既設の電話機や回線等を接続するコネクタです。

極性切替スイッチ

CD7D主装置(ISDN)にのみ装備されています。ISDN回線の極性を切替えます。

ETH端子

アース線を接続する端子です。

集線用ケーブル押さえバンド

各種配線を束ねるバンドです。

停電バックアップ用電池

停電時の動作をフルバックアップする電池です。添付のニッカド電池パックを本位置に収容します。

CD7D呼出電話機内観

接続コネクタ

CD7D主装置との接続コネクタです。添付の8Wラインコードを使用します。

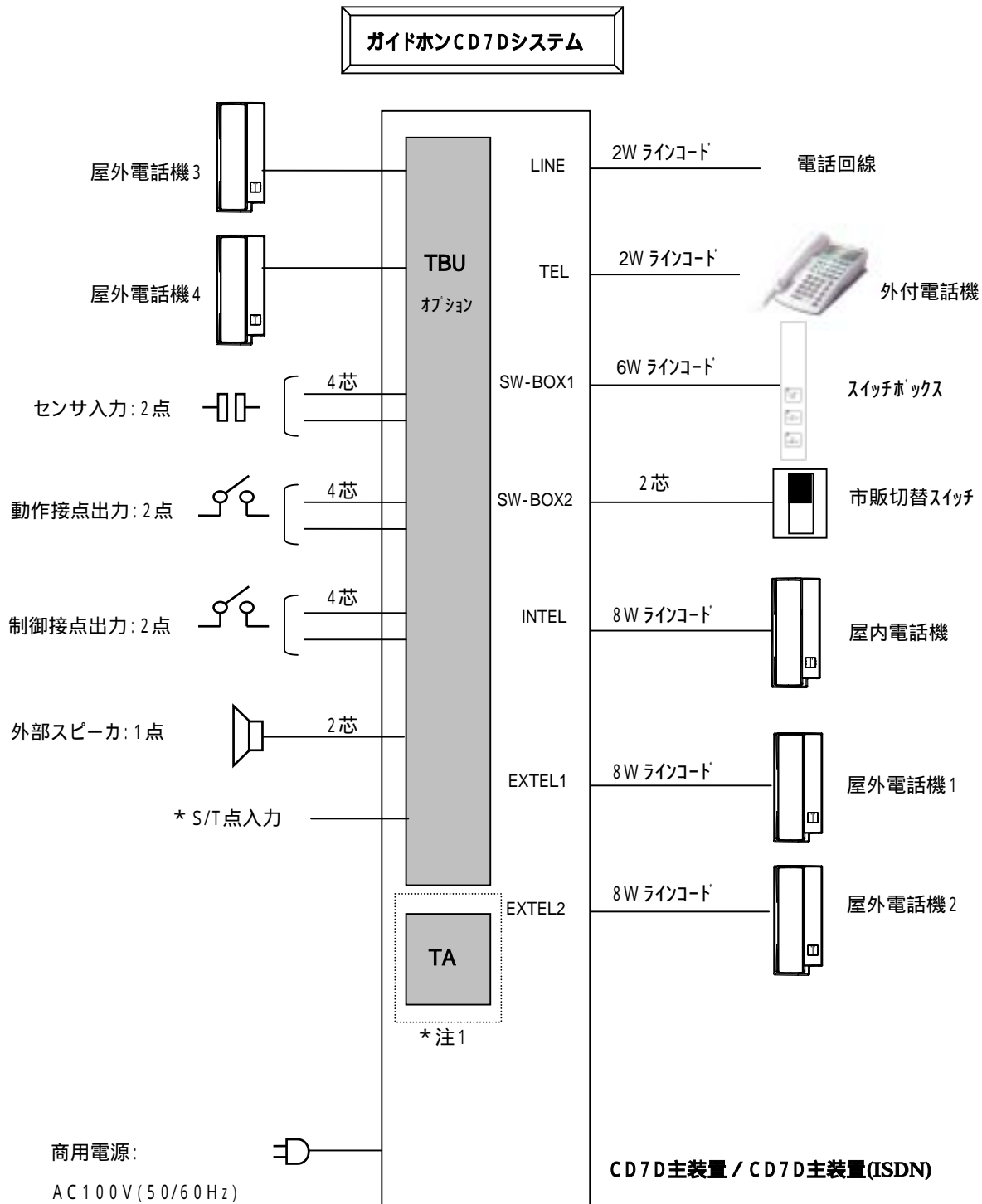
スピーカ音量切替スイッチ

CD7D呼出電話機のスピーカ音量を切替えます。

初期値は「大」側です。

3. システム構成

3.1 システム構成図



注1 TA モジュール、および TBU 上の S/T 点入力は CD7D 主装置 (ISDN) に装備。

* 屋内電話機/屋外電話機は兼用。(CD7D 呼出電話機)

* SW-BOX1,2 には、スイッチボックス2台か市販切替スイッチ2台のいずれかが接続可能。

3.2 システム構成品と機能説明

システム構成品

No	品名	数量	機能および構成品	備考
1	CD7D 主装置	1	機能:CD7D 呼出電話機を接続し、外部と通話できます。 屋外電話機:2台 屋内電話機:1台 スイッチボックス:2台 オプションユニット(CD7D-TBU-A1):1枚 構成品()内は数量: CD7D 主装置(1) 総合説明書(1) 保証書(1) 停電バックアップ用ニッカド電池パック(1) 固定用ネジ(2) 壁掛けベース(1) お客様要望機能チェック表(1) 2W-8W ラインコード(1) 2W ラインコード(1) ガイドホンシール(2)	
2	CD7D 主装置 (ISDN)	1	機能:CD7D 呼出電話機を接続し、外部と通話できます。 ISDN 回線(U 点接続)を収容できます。 屋外電話機:2台 屋内電話機:1台 スイッチボックス:2台 オプションユニット(CD7D-TBU-A1):1枚 構成品()内は数量: CD7D 主装置 ISDN(1) 総合説明書(1) 保証書(1) 停電バックアップ用ニッカド電池パック(1) 固定用ネジ(2) 壁掛けベース(1) お客様要望機能チェック表(1) 2W-8W ラインコード(1) 8W ラインコード(1) ガイドホンシール(2)	
3	CD7D 呼出電話機		機能:CD7D 主装置に接続し、外部と通話できます。 屋内/屋外電話機兼用です。 構成品()内は数量: CD7D 呼出電話機(1) 8W ラインコード(1) 保証書(1) 固定用ネジ(2)	
4	CD7D スイッチボックス		機能:CD7D 主装置に接続し、連絡先の切替を行います。 構成品()内は数量: CD7D スイッチボックス (1) 6W ラインコード(1) 壁掛け金具(1) 壁掛け金具固定用ネジ(2) 連結金具(1) 連結金具固定用ネジ(4)	オプション
5	CD7D-TBU-A1 AC7916-0000	1	機能:増設用コネクタユニットです。 センサ入力:2点 動作接点出力:2点 制御接点出力:2点 外部スピーカ:1点 屋外電話機:2台、S/T点入力:1点 構成品()内は数量: CD7D-TBU-A1(1) 取付ネジ(2) TBUドライバ(1)	オプション
6	停電バックアップ用ニッカド電池パック EX1821-0000		機能:停電フルバックアップ用電池です。電池の寿命は約3年です。 構成品()内は数量: 14.4V ニッカド電池パック(1)	保守用品
7	メモリバックアップ用ニッカド電池パック EX1792-3FP0		機能:メモリバックアップ用電池です。電池の寿命は約3年です。 構成品()内は数量: 3.6V ニッカド電池パック(1)	保守用品
	2W-8W ラインコード EV5327-0010		機能:主装置のシステムデータ設定用。市販電話機と主装置の接続に使用します。 構成品()内は数量: 2W-8W ラインコード(1)	保守用品
	単独電話機		機能:主装置のシステムデータ設定用に使用する、単独電話機です。	
8	8Wラインコード EV5315-50H0		機能:主装置と呼出電話機の接続に使用するコードです。 構成品()内は数量: 8W ラインコード(1)	保守用品
9	6Wラインコード EV5326-0000		機能:主装置とスイッチボックスの接続に使用するコードです。 構成品()内は数量: 2W ラインコード(1)	保守用品
10	NMJ-8 モジュラーロケット		工事用品	

4. システム仕様

No.	項目	仕様	記事
1	適用回線	・一般電話回線 ・ISDN回線 (S/T点接続、アナログポート出力1)	ISDN回線収容時は、CD7D主装置(ISDN)を使用
2	ダイヤル種別	DP(10PPS/20PPS) / PB	
3	ダイヤル桁数	最大32桁 0～9	
4	通信方式	・音声(録音 / 固定) ・DTMF ・DTMF + 音声	
5	応答方式	極性反転検出	
6	スイッチ	・設定スイッチ ・電源スイッチ	スライド型 波型
7	表示機能	LED: 3個 電源ランプ、設定ランプ、インターホンランプ	電源ランプ : 緑 LED 設定ランプ : 赤 LED インターホンランプ : 赤 LED
8	メッセージ用音声録音	電話機による録音・再生(最大16秒)	
9	センサー入力	・2入力 ・無電圧メーク接点入力	
10	動作接点出力	・2出力 ・ドライ接点、接点定格:DC30V・1A	待機時ブレーク
11	制御接点出力	・2出力 ・ドライ接点、接点定格:DC30V・1A	待機時ブレーク
12	屋外電話機	2台	オプションユニットで最大4台まで増設可能
13	屋内電話機	1台	
14	外部切替入力	CD7Dスイッチボックス/市販切替スイッチ:最大2台	
15	外付電話機	1台	市販品
16	外部スピーカ	1台、ランプ内蔵出力可変型	市販品
17	設置形態	・CD7D主装置:壁掛け設置 ・CD7D呼出電話機/スイッチボックス:壁掛け/ 卓上設置	

* 上表9～12項及び16項は、CD7D-TBU-A1収容時に使用可能。

5. 外形寸法および重量

品名	重量	外形寸法(mm)		
		幅	高さ	奥行き
CD7D主装置	約1.2Kg	178	240	80
CD7D主装置(ISDN)	約1.3Kg			
CD7D呼出電話機	約300g	78	176	61
CD7Dスイッチボックス	約100g	34	160	34

6. システム定格

電源電圧・消費電力

動作電源電圧	AC100V 10V 50/60Hz		
品名	待機時	動作時(最大)	記事
CD7D 主装置	5W	10W	
CD7D 主装置(ISDN)	5W	12W	

大地アース

大地アース種別	規格
	第3種設置工事(設置抵抗 100 以下)

停電動作

項目	停電動作	充電時間
フルバックアップ	5時間待機後 1回(10分程度)の屋外電話機通話が可能	充電時間48時間以上
メモリバックアップ	停電バックアップ電池放電後、48時間以上メモリをバックアップ可能	充電時間48時間以上

注1. 工場出荷時は電池の完全充電を行っていませんので、設置時予め充電して下さい。

注2. 電池の寿命は約3年です。停電発生の有無に関わらず必ず3年毎に交換して下さい。

使用温度・使用湿度範囲

使用温度範囲	使用湿度範囲
0 ~ 40	20 ~ 80% (結露なきこと)

工事用品

配線ケーブル	規格
CD7D 呼出電話機/スイッチボックス配線	添付のラインコードまたは 0.5 ETI ケーブル同等品
周辺機器(センサ等)配線	0.5 ETI ケーブル同等品
大地アース線	1.6 1V等

7. 接続(周辺)機器の規格

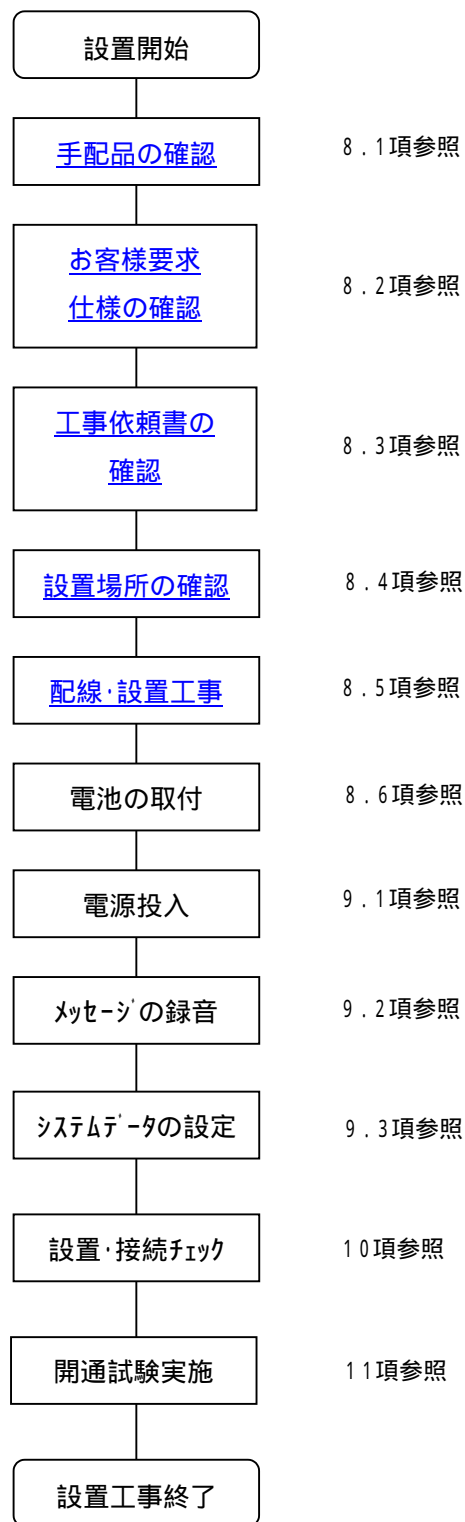
接続(周辺)機器の規格

接続機器	指定品	コード	規格	記事
外付電話機			技術基準適合認定品	
センサ入力			内部フルアップ電圧:DC10V(内部抵抗 6.8K) ループ抵抗:100 以下 無電圧メーク出力	
外部スピーカ			アンプ内蔵 ループ抵抗:100 以下 入力インピーダンス 600 (100 ~ 300mVrms)	
接点出力に接続される装置			定格電圧:AC120V、DC60V 定格電流:1A ループ抵抗:100 以下	
CD7D 呼出電話機			ループ抵抗 40 以下	
CD7D スwitchボックス 連絡先切替スイッチ			ループ抵抗 40 以下	

工事説明編

8. 設置工事

設置工事は下図のフローチャートに従って行います。



8.1 手配品の確認

- (1) 本装置および周辺機器の手配漏れがないか確認して下さい。
- (2) 工事の手配漏れがないか確認して下さい。

8.2 お客様要求仕様の確認

下記のように、お客様の要求仕様に合ったシステムデータの選定を行ってください。

<使用方法>

ガイドホンCD7Dお客様要望機能チェック表(添付品)に対し、要求機能や必要事項を記入していき、それらを満足させる各種システムデータの設定項目を抽出します。

ガイドホンCD7D お客様要望機能チェック表(設定編P1)

1	屋外電話機	<input checked="" type="checkbox"/> 1台 <input type="checkbox"/> 2台以上	ABOを設定	
2	モード切替	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する <input type="checkbox"/> 使用しない	<input checked="" type="checkbox"/> 市販切替スイッチ使用 <input type="checkbox"/> CD7Dスイッチボックス使用	A95を1に変更
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> レ点を書込み、必要事項を抽出 </div>				
		<input checked="" type="checkbox"/> アナログ回線 <input type="checkbox"/> ISDN回線 <input type="checkbox"/> 通報先が3箇所以下 <input checked="" type="checkbox"/> A/Bグループ設定を行う <input type="checkbox"/> 第一/第二宛先の呼出時間は30秒 <input type="checkbox"/> 第一/第二宛先の呼出時間は60秒 <input type="checkbox"/> IDコードを送出する	<input checked="" type="checkbox"/> PB <input type="checkbox"/> DP <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">A93を1に変更</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">A11~A13を設定</div>	<input checked="" type="checkbox"/> 屋外電話機個別ID

8.3 工事依頼書の確認

本工事の依頼を受けた時点でその工事内容を把握し、前項のシステム構成から必要な周辺機器等の注意事項を確認してから作成して下さい。

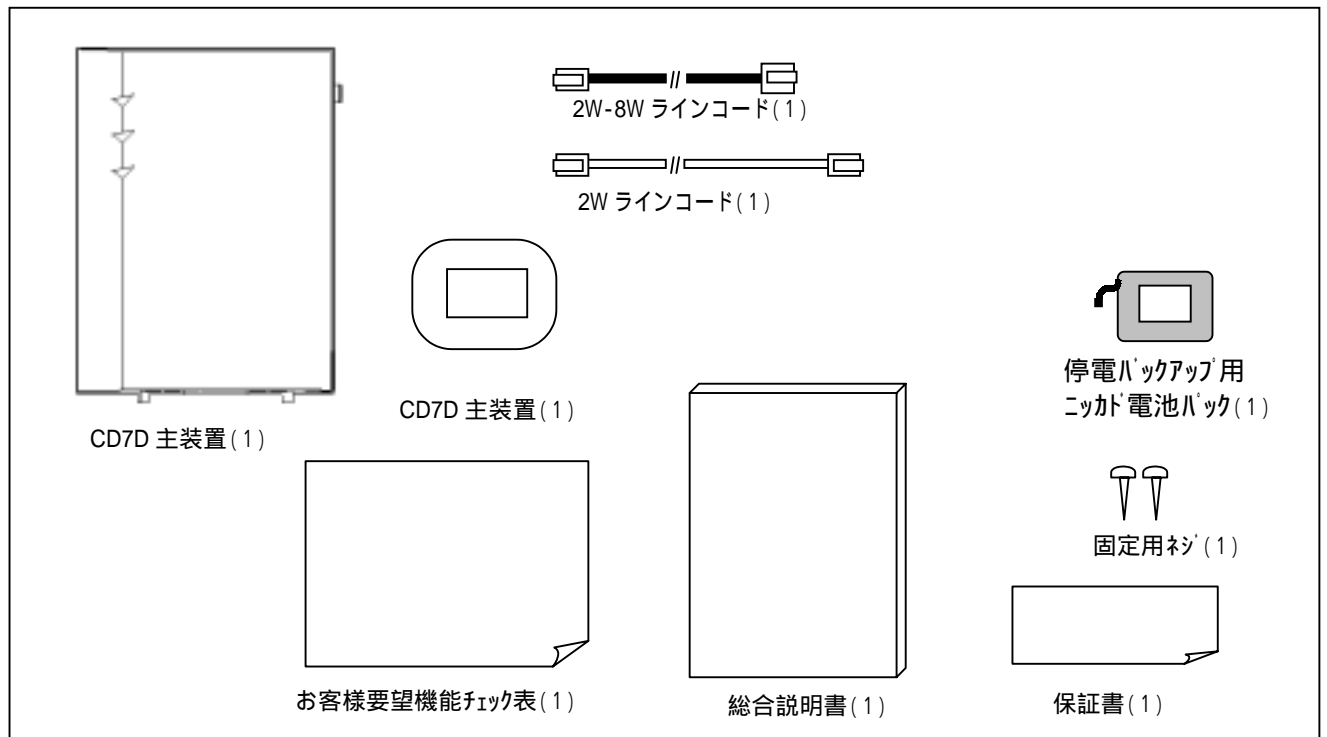
8.4 設置場所の確認

項目	設置条件	注意事項
設置環境	温度: 0 ~ 40 湿度: 20 ~ 80%	急激な温度、湿度の変化、結露がないこと
設置場所	・直射日光、暖房器具等で高温・多湿にならない場所 ・著しく温度の低下しない場所 ・振動・衝撃、ゴミ・ホコリが少ない場所 ・冠水、薬品類(ガソリン・ベンジン・シンナー等)のかかる恐れのない場所 ・溶接機、高周波ミシン等、電氣的ノイズを発生する物やラジオ、テレビ等、高周波信号を扱っている機器が近くにない場所 ・通行、物の出し入れがあり、保守点検作業に支障がない場所	
電源設備	AC100V ± 10V(50Hz/60Hz) AC100V が24時間常時供給されていること	電源コンセントが近くにある場所
通信設備ケーブル	通信用第3種アースが取れる場所	

8.5 配線・設置工事

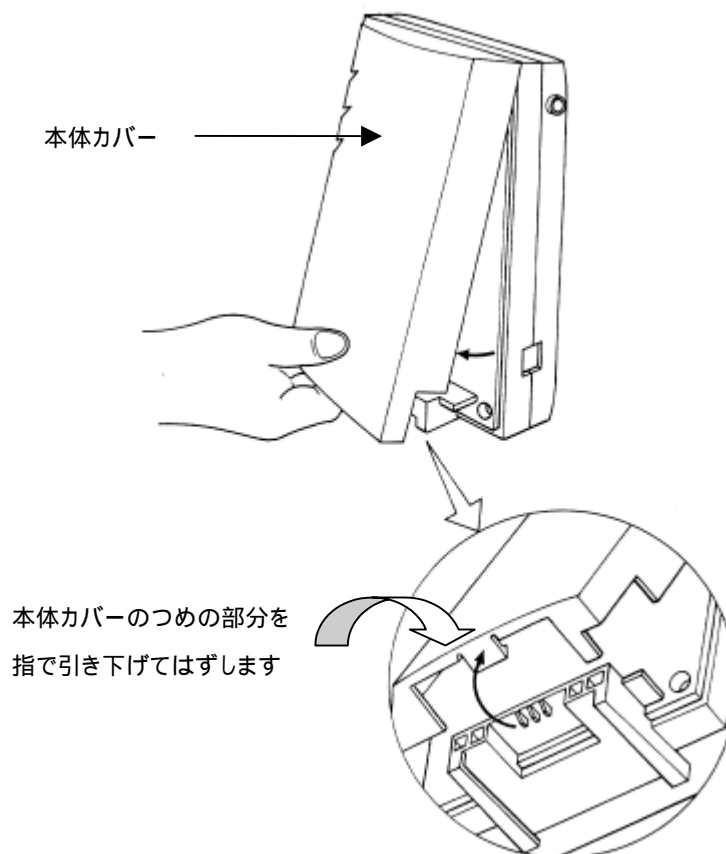
8.5.1 構成品の確認

構成品を取出し、全てそろっていることを確認します。



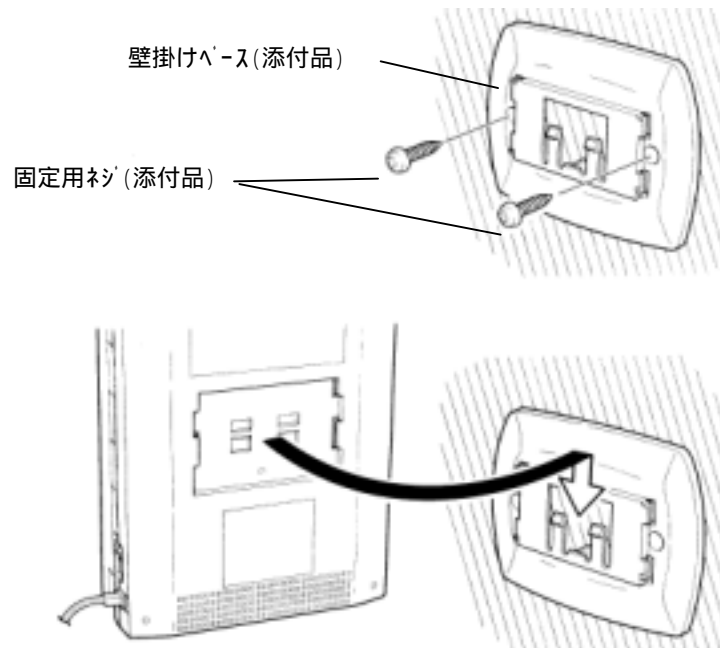
8.5.2 本体カバーの取り外し

主装置正面のカバーを下図のように取り外します



8.5.3 CD7D主装置の取付

CD7D主装置(以下主装置)の取付は、下図のように添付されている壁掛けベースおよび固定用ネジを使用して壁面に設置して下さい。



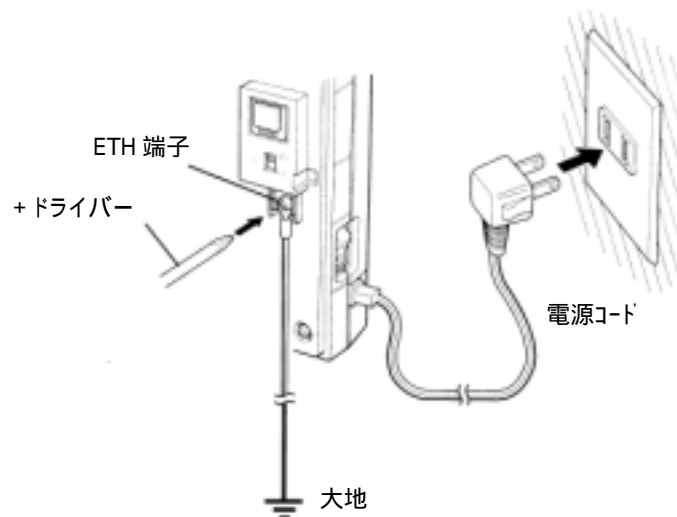
取付位置決定後、壁掛けベースを壁面に固定し、添付の固定用ネジにて固定します。

固定用ネジで固定した壁掛けベースに主装置を引っ掛けます。

「カチッ」と音がするまで主装置を壁掛けベースに引っ掛けると固定完了です。

8.5.4 アース線の接続、および商用電源への接続

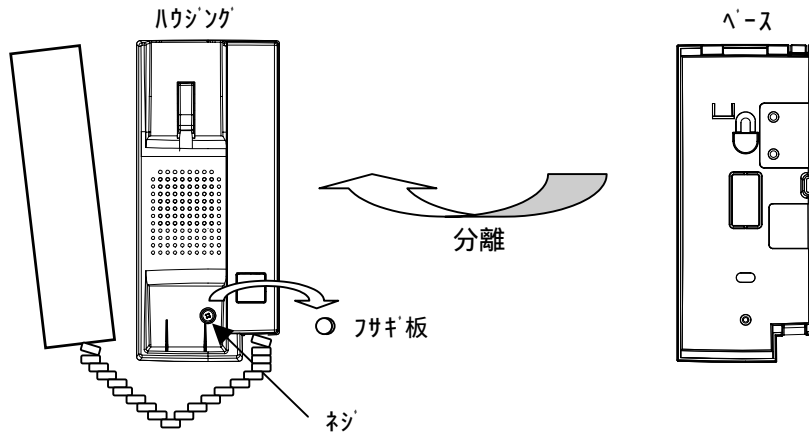
アース線は、主装置の ETH 端子にネジ止めし、第3種接地工事(接地抵抗100 Ω以下)を必ず実施して下さい。



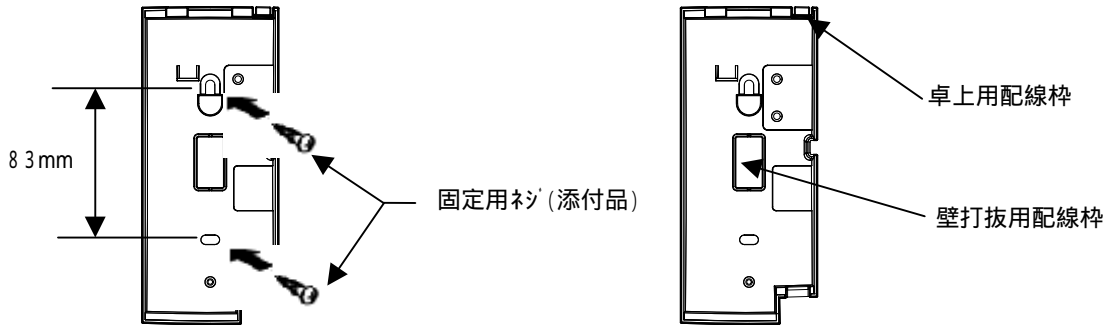
8.5.5 CD7D呼出電話機の取付

CD7D呼出電話機(以下呼出電話機)を所定の壁面に固定します。

呼出電話機受話器下のフサギ板をはずし、ネジをはずして本体を分離します。

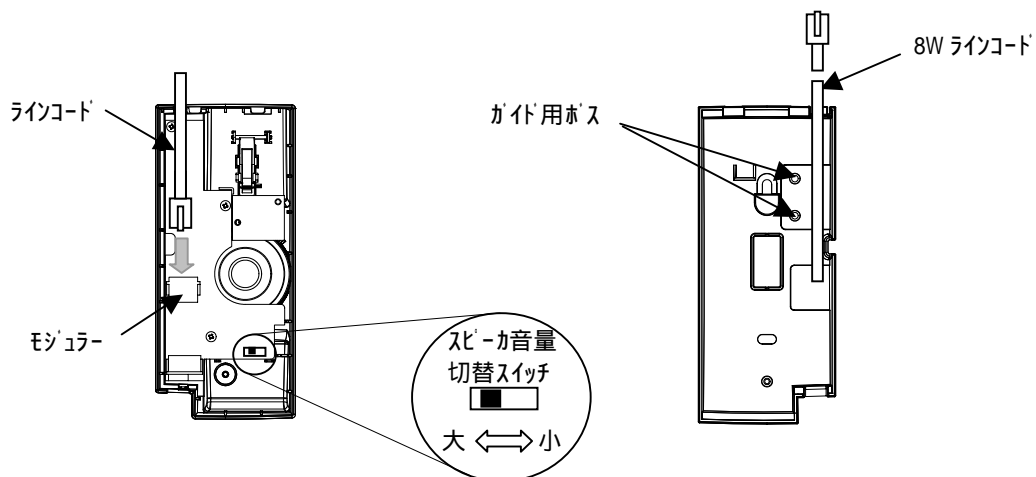


ベースを壁面の所定位置に添付の固定用ネジにて固定します。配線が壁打抜きの場合は、ベースの配線枠をニッパ等で切取り、添付の8Wラインコードを通してから壁面に固定します。



ハウジング側のモジュラーに添付の8Wラインコードを挿入します。

・通常配線の場合、8Wラインコードはベースのガイド用ボスの右側を通して、卓上用配線枠を切取ってから取出します。



・壁打抜き配線の場合、8Wラインコードは壁打抜用配線枠から取り出します。

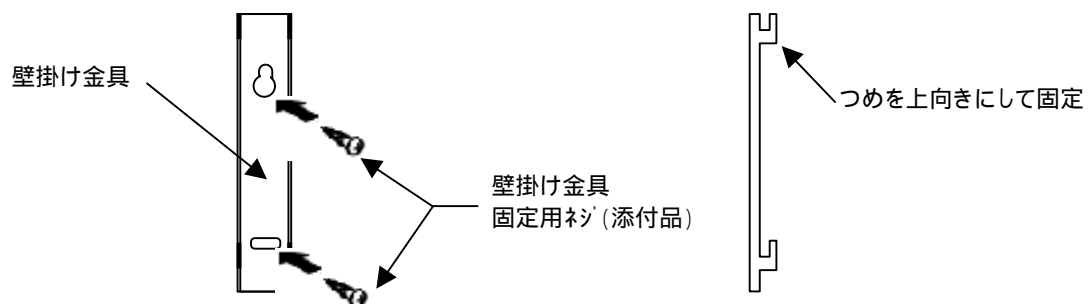
8Wラインコード收容後、ハウジングをベースに仮止めしておきます。通話試験時にスピーカ出力音量の調整が必要な場合、ハウジングを取り外してハウジング側に実装しているスピーカー音量切替スイッチで音量切替えを行います。工場出荷状態では、「大」側になっています。

8.5.6 CD7Dスイッチボックスの取付

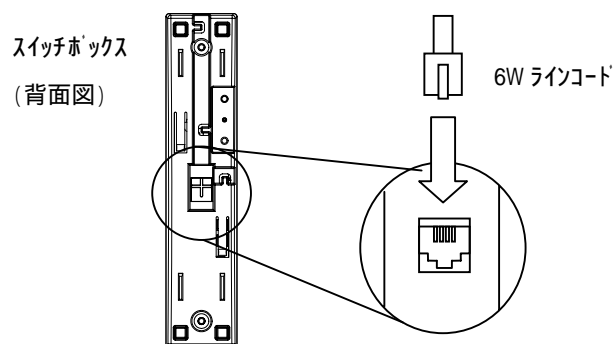
CD7Dスイッチボックス(以下スイッチボックス)を所定の壁面に固定します。

(1) 壁掛け設置の場合

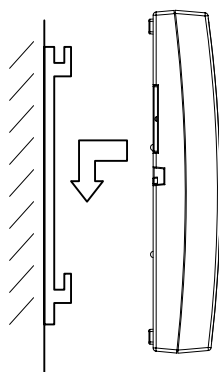
壁掛け金具を壁面に添付ネジにて固定します。



スイッチボックスの背面にあるモジュラーへ、6Wラインコードを差込みます。

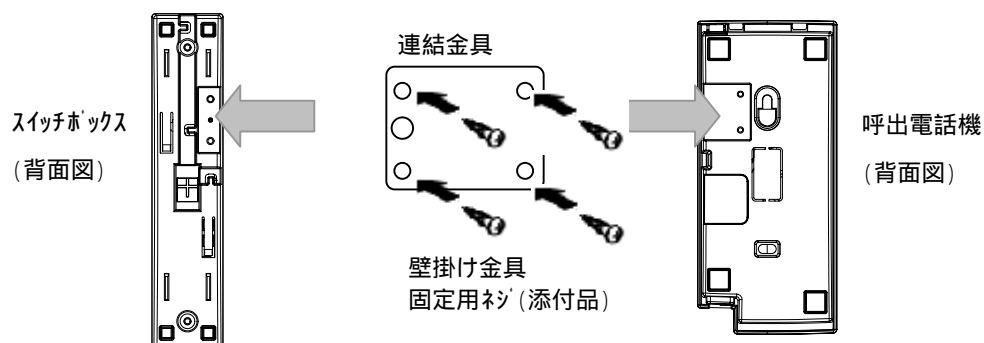


壁掛け金具にスイッチボックスを固定します。壁掛け金具の4つのつめをスイッチボックスの溝にあてがった後、下方向にカチッという音がするまでスライドさせます。

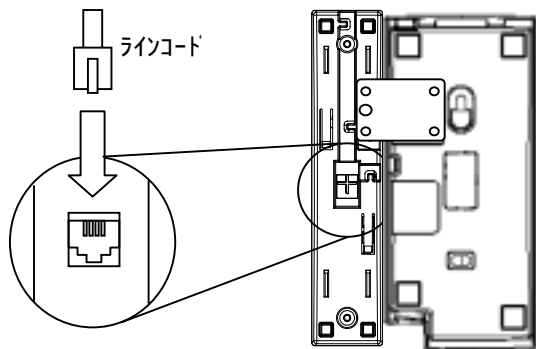


(2) 卓上設置の場合

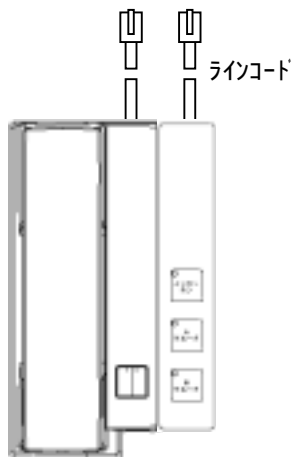
連結金具を呼出電話機およびスイッチボックスに、壁掛け金具固定用ネジにて固定します。



スイッチボックスの背面にあるモジュラーへ、6Wラインコードを差込みます。



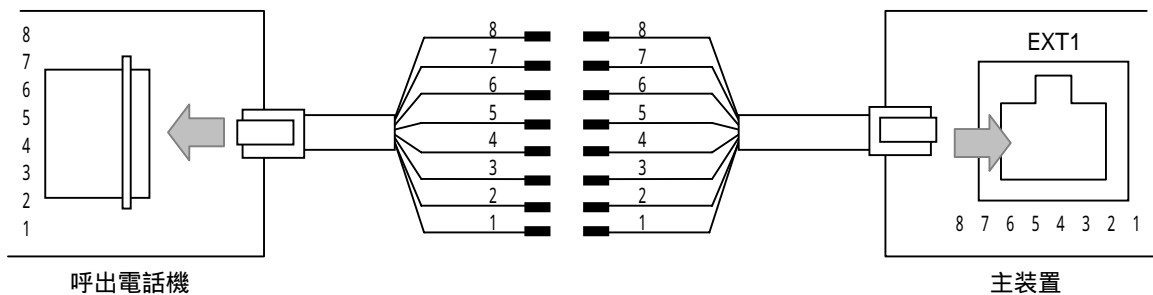
下図のように卓上設置し、各ラインコードを主装置に接続します。



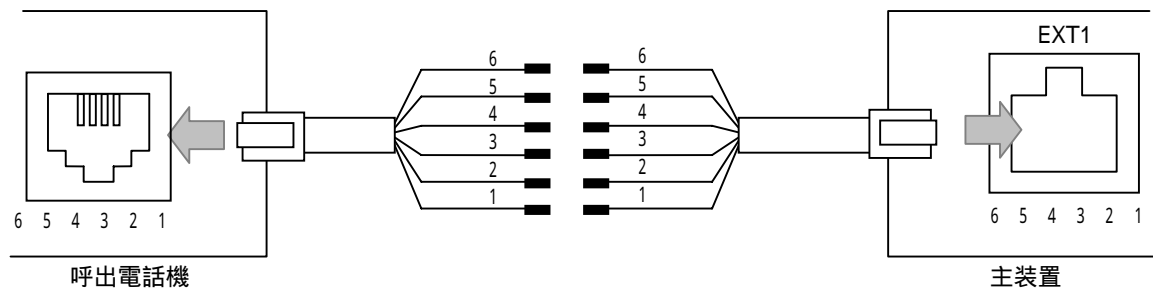
8.5.7 配線を延長する場合

下図のように配線し、延長して接続します。

(1) 主装置 - 呼出電話機間



(1) 主装置 - スイッチボックス間

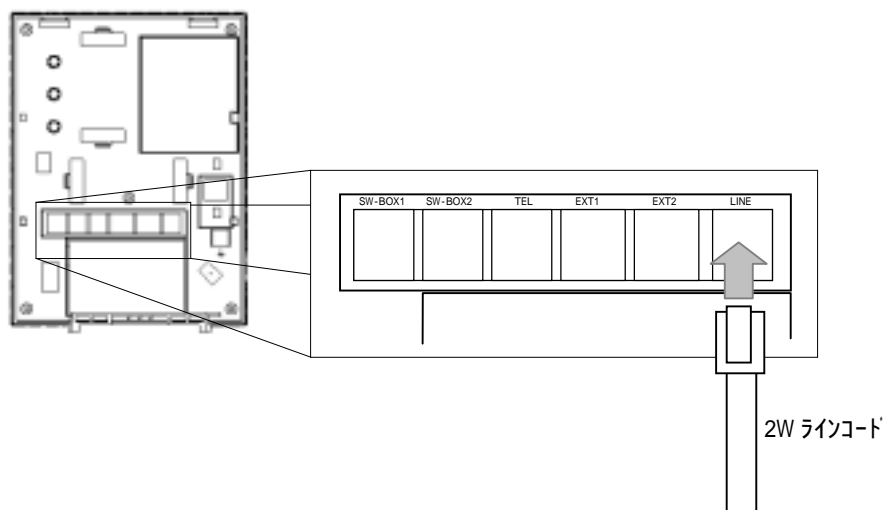


- 注意**
- ・誤った配線を行うと、主装置や呼出電話機が破壊する恐れがあります。
 - ・電源スイッチがONのまま、コードの抜き差しを行わないで下さい。

8.5.8 電話回線、電話装置の接続

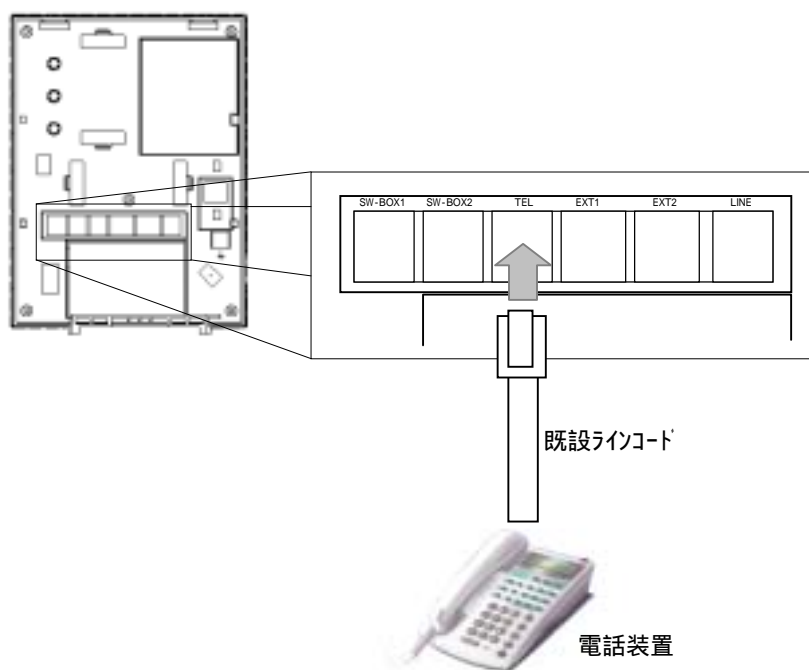
(1) 電話回線の接続

電話回線は、本体のモジュラー端子[LIN]に添付の2Wラインコードにて接続します。



(2) 電話装置の接続

電話機やFAX等の電話装置は、本体のモジュラー端子[TEL]に既設のラインコードにて接続します。



! 注意

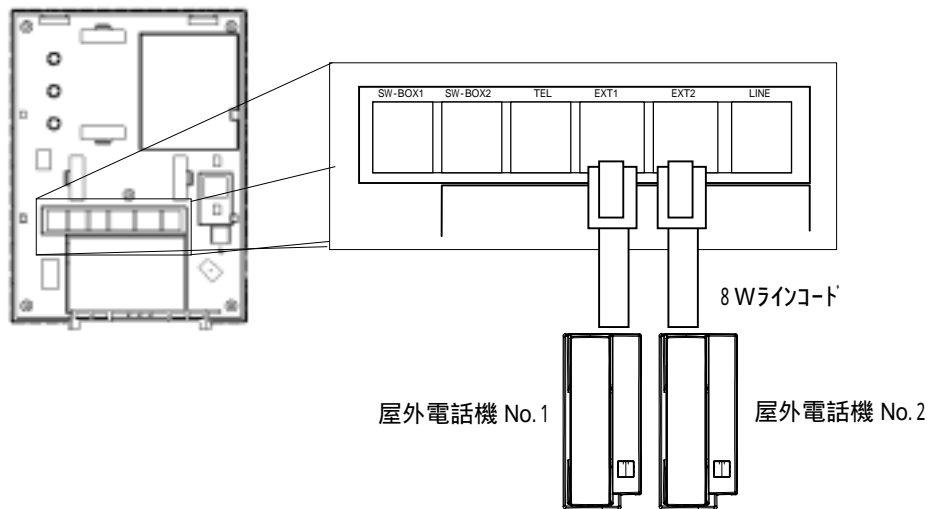
- ・電話回線に、他の電話装置をブランチ(親子)接続しないで下さい。
- ・キャッチホン等の付加サービスを利用すると、正常な動作が妨げられることがあります。
- ・専用線への接続は出来ません。
- ・ISDN回線へ接続する場合は、CD7D主装置(ISDN)をご購入願います。

8.5.9 呼出電話機の接続

(1) 屋外電話機の配線

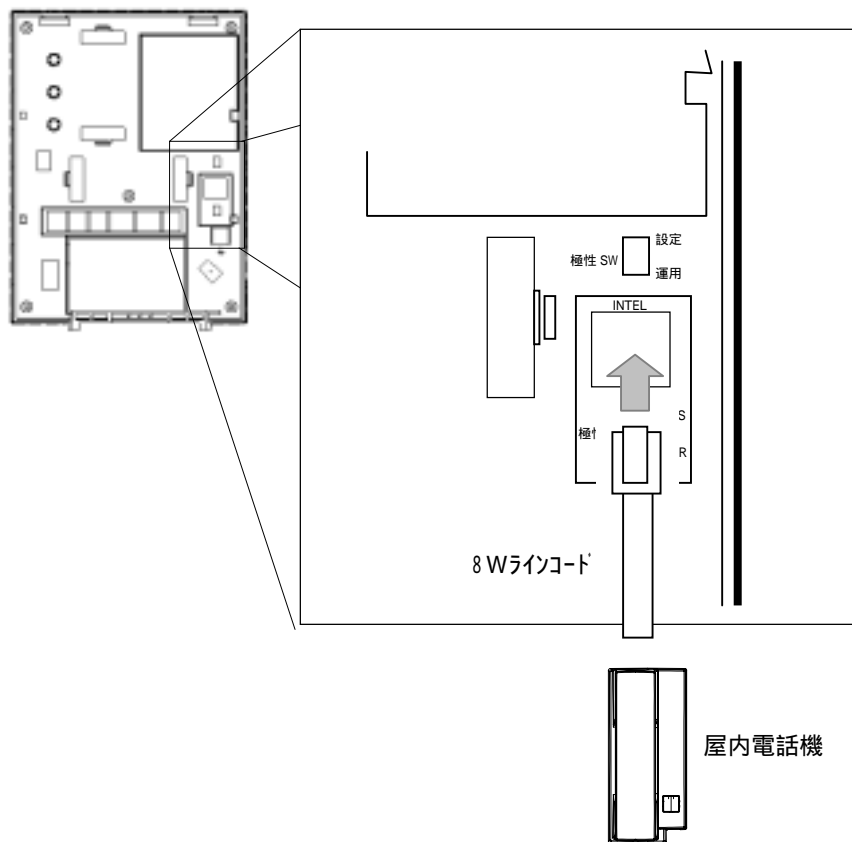
屋外電話機として使用する呼出電話機を、主装置の EXT1(屋外電話機 No.1)へ接続します。

同様に2台目は主装置の EXT2(屋外電話機 No.2)へ接続します。配線は呼出電話機に添付の8Wラインコードを使用します。



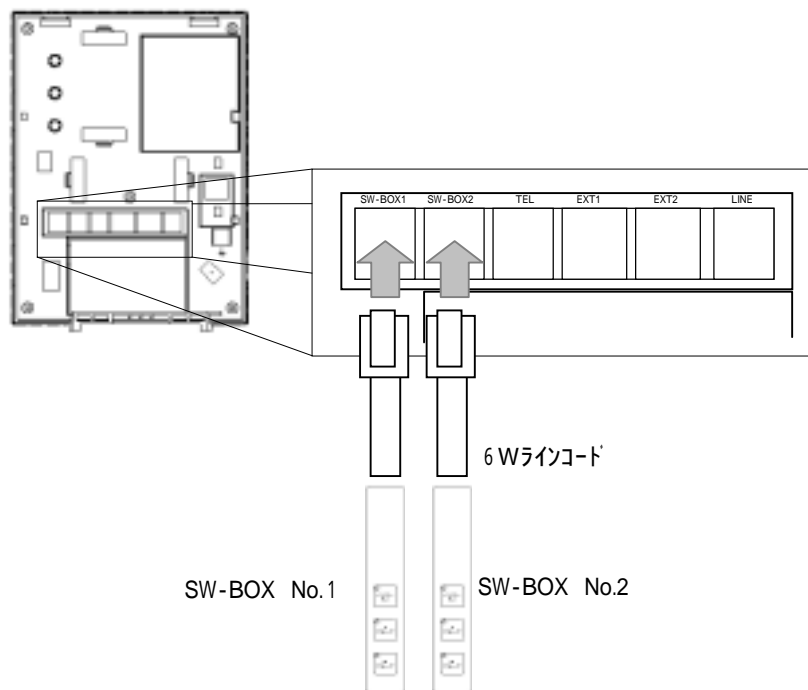
(2) 屋内電話機の配線

屋外電話機として使用する呼出電話機を、主装置の INTEL(屋内電話機)へ接続します。配線は呼出電話機に添付の8Wラインコードを使用します。



8.5.10 スイッチボックスの接続

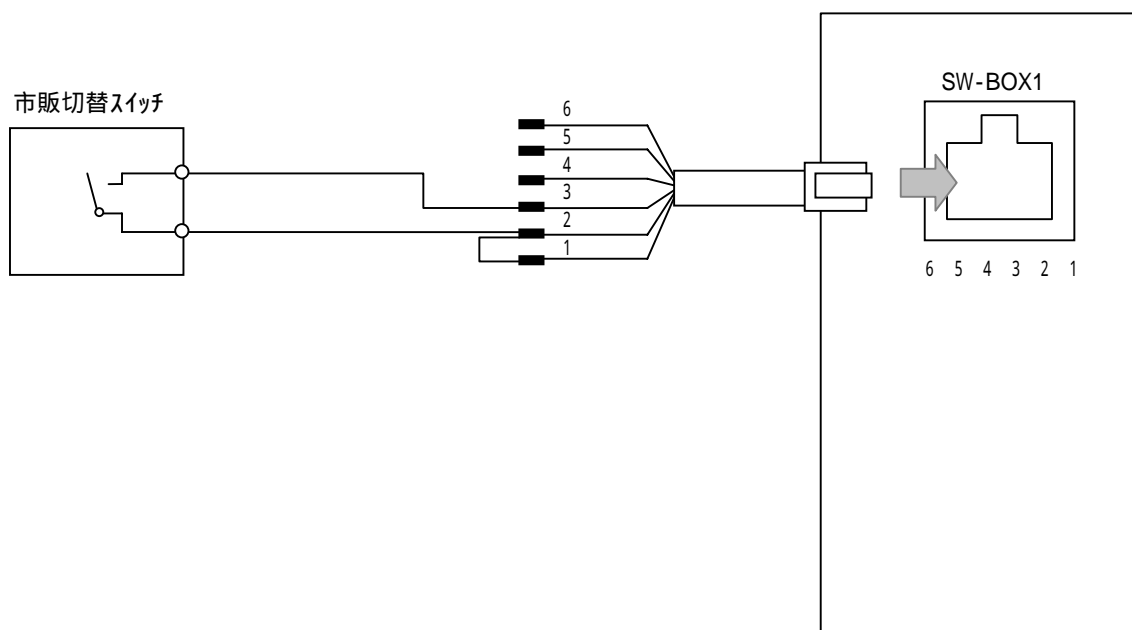
スイッチボックスを、主装置の SW-BOX1 (外部切替入力1) へ接続します。同様に2台目は主装置の SW-BOX2 (外部切替入力2) へ接続します。配線はスイッチボックスに添付の6Wラインコードを使用します。



8.5.11 タイマースイッチ/切替スイッチの接続

主装置の外部切替入力に市販スイッチ等を接続し運用する場合、下図のように接続することにより、インターホン/Aグループの切替えを行います。市販スイッチはロック式のみ接続可能です。スイッチ OFF(ブレーク)でインターホン、スイッチ ON(メーク)でAグループになります。

*この場合、システムデータの設定変更が必要になります。(A95を「1」に変更)

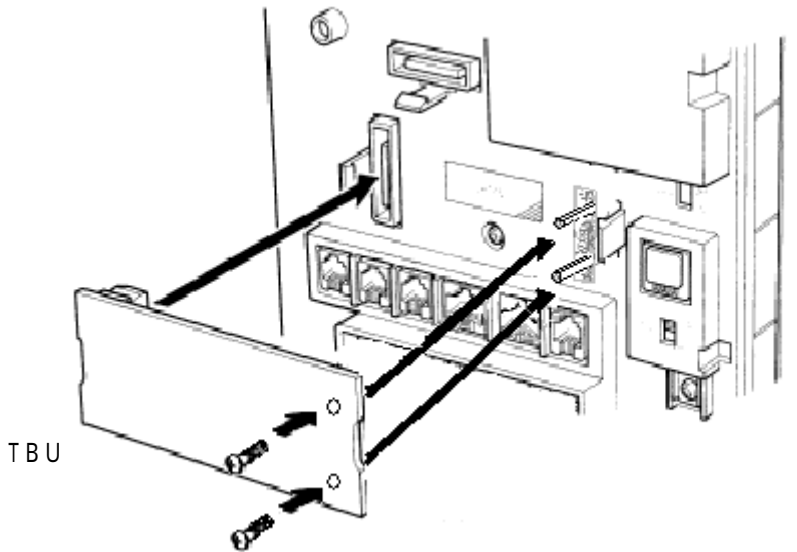


8.5.12 各種増設

CD7D - TBU - A1 (以下TBU、オプションユニット)を主装置に装着することにより、外部スピーカ、センサ入力、接点出力の接続、および屋外電話機を増設することが出来ます。

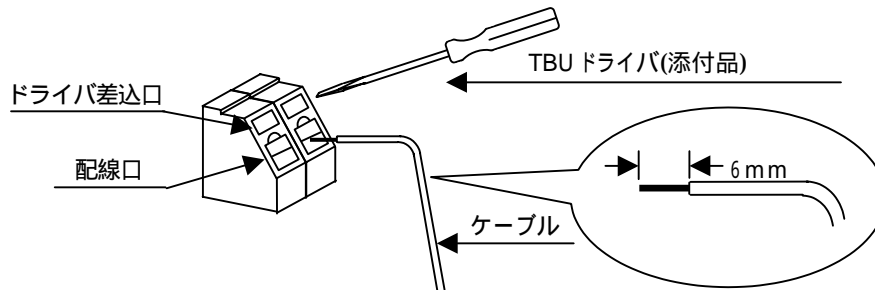
(1) TBUの取付

TBUは下図のとおり、主装置へ装着後、TBUに添付されているネジにて固定します。



(2) スクリューレスコネクタへの配線方法

下図のようにTBUドライバーを使用し、ケーブルを差込み固定します。

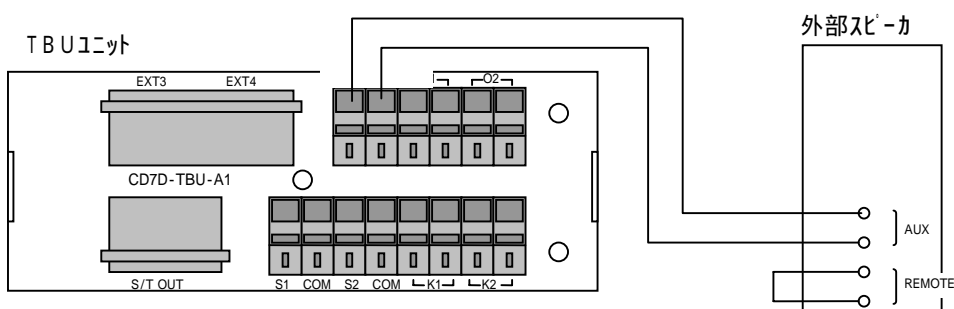


作業手順

- ケーブルの芯線が6mm程度となるように被覆を切断します。
- ドライバー差込口に TBU ドライバを差し込むと配線口が開きます。
- ドライバーは強めに差し込んでください。
- 配線口にケーブルを奥まで差し込みます。
- マイナスドライバーを抜くと配線口が閉じケーブルが固定されます。
- 配線口が芯線を固定しているか確認してください。

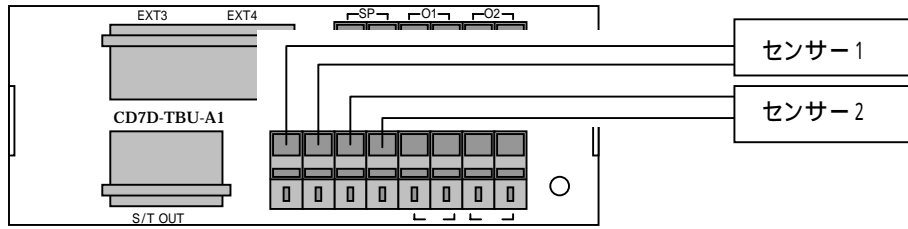
(3) 外部スピーカの接続

下図のように、TBU上のスクリーンレスコネクタと外部スピーカをケーブルで接続します。



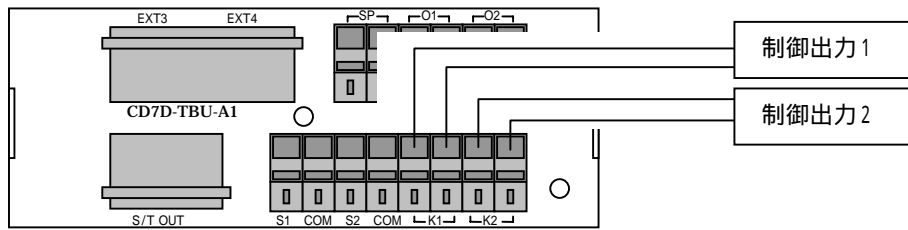
(4) センサ入力の接続

下図のように、TBU上のスクリーレスコネクタとセンサーをケーブルで接続します。



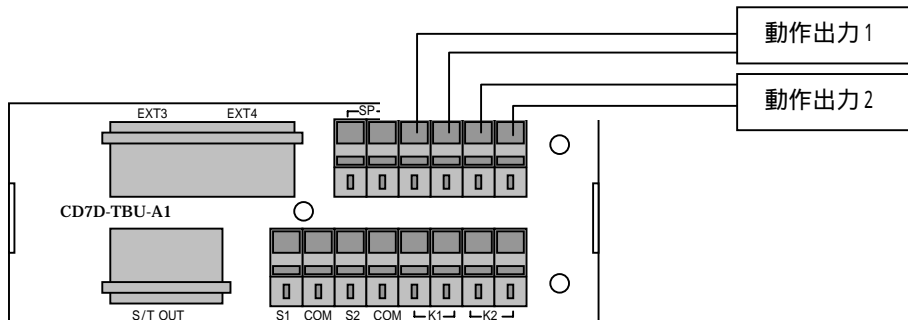
(5) 制御接点出力の接続

下図のように、TBU上のスクリーレスコネクタと制御機器をケーブルで接続します。



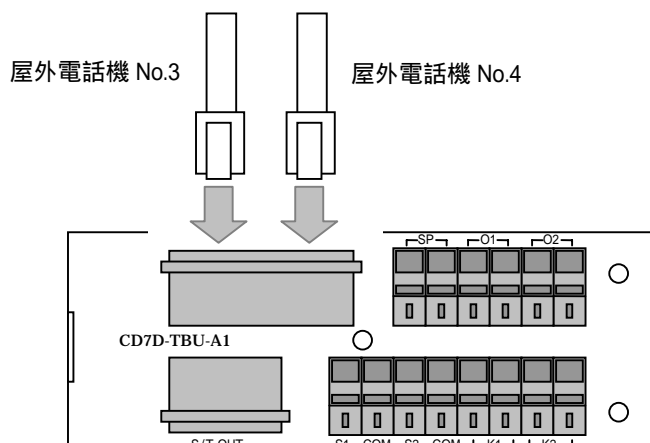
(6) 動作接点出力の接続

下図のように、TBU上のスクリーレスコネクタと制御機器をケーブルで接続します。



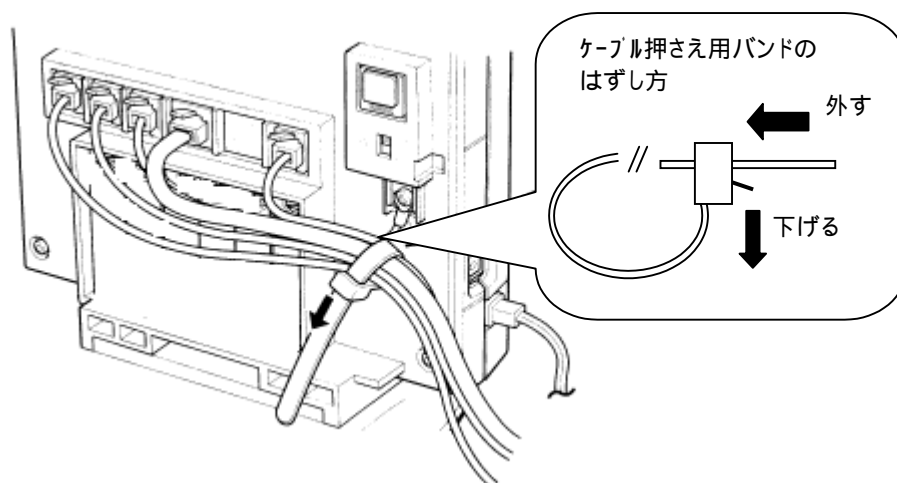
(7) 呼出電話機の接続

呼出電話機を屋外電話機として3台、4台と増設したい場合は、TBUユニットのEXT3(屋外電話機 No.3)/EXT4(屋外電話機 No.4)へ接続します。下図のように、TBU上のモジュラーに添付のラインコードにて接続します。



8.5.13 主装置内配線ケーブルの集線

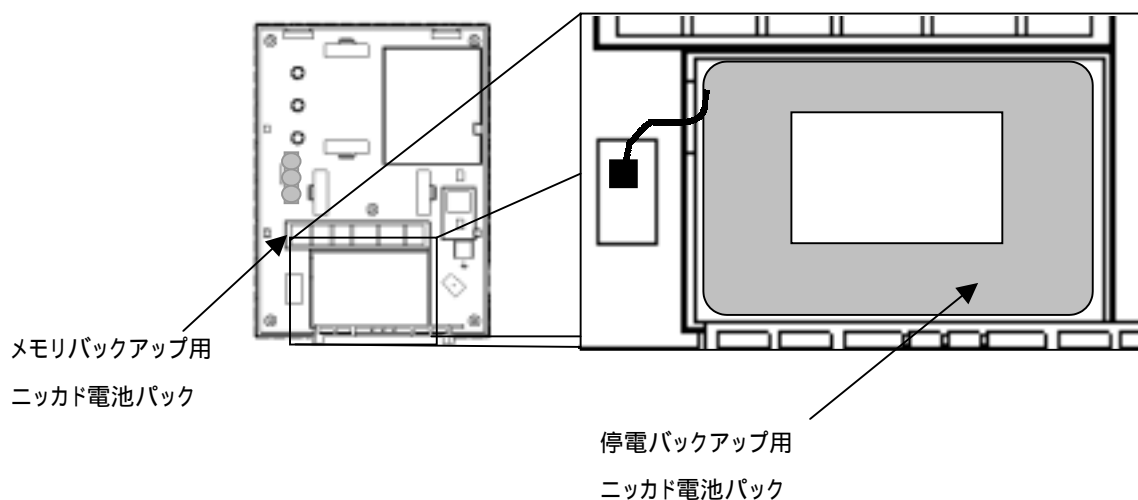
下図のように配線ケーブルをケーブル押さえ用バンドで集線します。きれいに集線しないと、主装置のカバーがきちんと閉じなくなります。



8.6 電池の取付

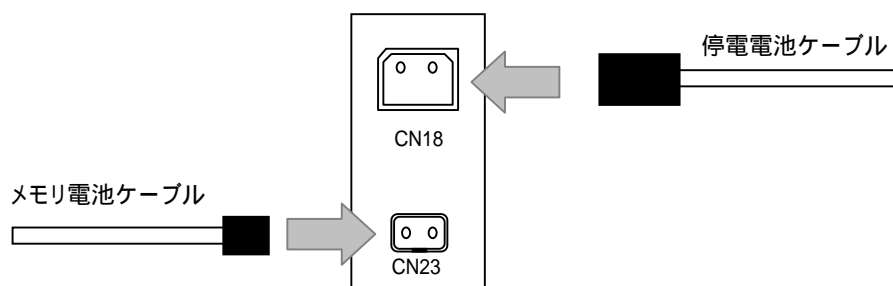
8.6.1 電池の収納

停電バックアップ用ニッカド電池パック(以下停電電池)は、下図のように、主装置内の電池収納スペースに収納し、各コネクタへ接続します。メモリバックアップ用ニッカド電池パック(以下メモリ電池)は、工場出荷段階で主装置に收容されています。



8.6.2 電池の接続

停電電池はCN18へ接続します。メモリ電池はCN23に接続します。



注意 ・装着向きに注意し、必ず所定のコネクタに差込んでください。

9. 各種設定

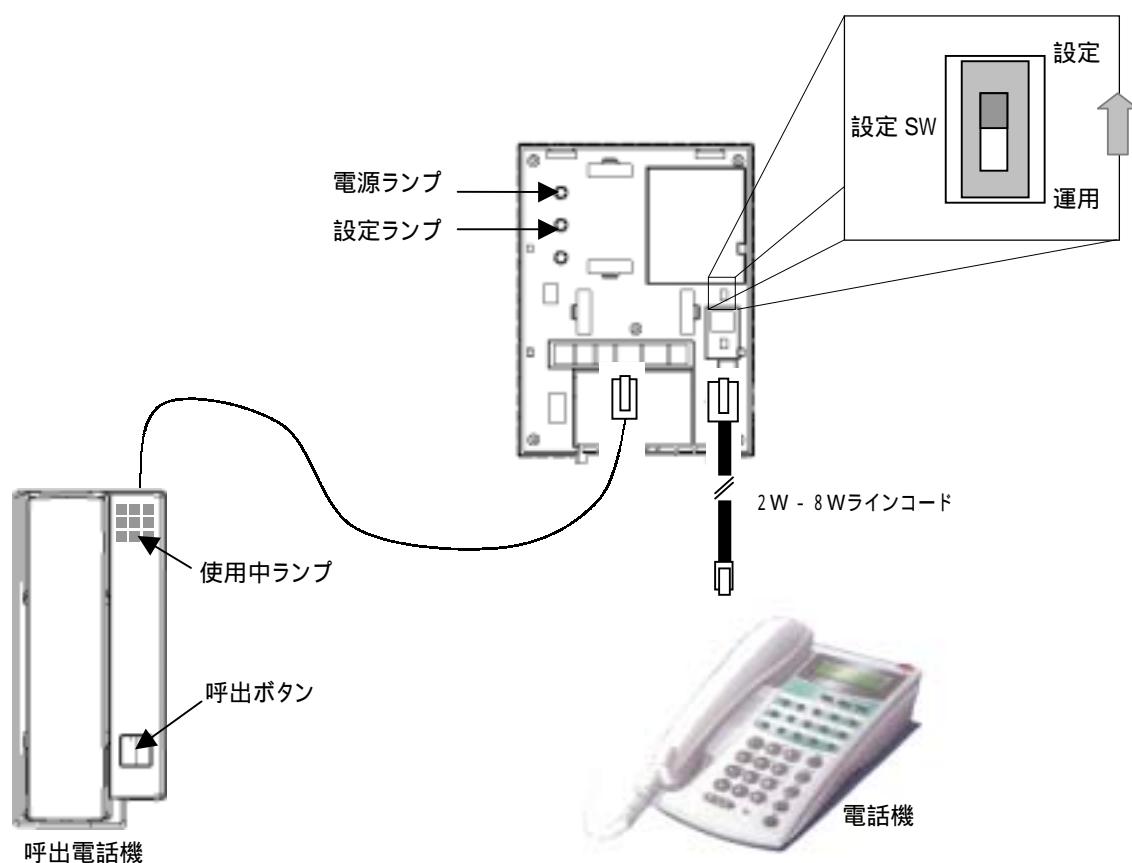
設置工事完了後、電源を投入し下記の要領でシステムデータの設定を行います。

9.1 電源投入

主装置の電源スイッチをONすると、電源ランプが緑色点灯します。

9.1.1 音声の録音再生、およびシステムデータ設定・確認準備

市販電話機(以下電話機)を使用してシステムデータの設定を行います。添付の2W - 8Wラインコードと、電話機に接続されているラインコードを交換してから、電話機を主装置の「INTEL」コネクタへ接続します。音声の録音・再生は「EXT1」に接続した呼出電話機を使用して行います。設定SWを設定側に切替えると設定ランプが赤色点灯します。接続が終わったら、電話機の受話器を上げて、**#**を押して下さい。「番号を入力して下さい」というガイダンスが送出され、以後、録音音声の録音・再生や、システムデータの設定・確認を行なうことができます。



注意 システムデータの設定・変更および確認中、本システムは運用停止となるため、一連の連絡や通報が出来なくなります。事前にお客様の了解を得てから、運用に支障のないよう十分注意して下さい。
設定に使用する電話機は、接続されているラインコードを一旦抜取り、添付の8W-2Wラインコード(黒色)を使用し、「INTEL」へ接続して下さい。他のラインコードを使用したり、違うコネクタに接続すると主装置が破損します。

9.2 音声の録音・再生

IDコードや通報メッセージを、録音した音声で送りたい場合、以下手順で行います。

音声の録音・再生は、主装置の「INTEL」コネクタへ接続した電話機と、「EXT1」に接続した呼出電話機を使用して行います。各種番号入力も電話機で行いますが、**音声の録音は、「EXT1」に接続した呼出電話機を使用するのみ可能です。**

9.2.1 録音音声の録音方法

No.	項目	電話機操作			呼出電話機操作	備考
1	音声録音1	#	4	0	呼出電話機の受話器を上げて、 呼出ボタンを押しながら音声を 録音します	IDコード用
2	音声録音2	#	4	1		センサ1メッセージ用
3	音声録音3	#	4	2		センサ2メッセージ用

- ・呼出ボタンを押している間は音声録音を継続し、使用中ランプが点灯します。呼出ボタンを離すと録音停止します。
- ・録音は電話機の受話器を元に戻した状態で行ってください。受話器間でハウリングを起こす可能性があります。
- ・本作業は仮録音です。主装置の設定SWを「運用」側にし、設定ランプが消灯することにより録音した音声は主装置に登録されます。登録前に主装置の電源が切れた場合、それまで録音した内容は全て無効となります。

9.2.2 録音音声の再生方法

No.	項目	電話機操作			呼出電話機操作	備考
1	音声再生1	#	5	0		IDコード用
2	音声再生2	#	5	1		センサ1メッセージ用
3	音声再生3	#	5	2		センサ2メッセージ用

- ・録音されている音声は、電話機の受話器から再生されます。
- ・録音されていないフレーズを再生すると、「ピー」を送出します。

9.2.3 録音をやり直す場合

No.	項目	電話機操作			呼出電話機操作	備考
1	音声消去	#	6	0		消去が完了すると、受話器から「ピー」が送出されます

- ・録音音声は一括消去されます。フレーズ個別に消去することは出来ません。一括消去後に再度録音し直して下さい。
- ・消去が完了すると、受話器から「ピー」が送出されます。

9.3 システムデータの設定・確認

システムデータの設定・変更および確認作業は、以下手順で行います。

9.3.1 システムデータ設定作業

各種番号入力は、主装置の「INTEL」コネクタへ接続した電話機で行います。IDコードに「の」や「#」を登録したいときのみ「EXT1」に接続した呼出電話機を使用して行います。

連絡先電話番号の設定：A11～A43

9.3.1表 システムデータ設定・変更手順

No	項目	電話機操作	電話機確認	備考
1	設定対象番号の入力	# 2 X X と押します	「電話番号AX変更です」「番号を入力して下さい」「ビッ」が送出されます (X:左記で入力した番号の末尾)	XX:設定したい登録エリア番号
2	データの設定	Z Z Z Z # と押します	「確認です。ZZZZです」「ビッ」が送出されます	Z:設定したい内容
3	設定内容の再確認	# を押します	「ZZZZです」「ビッ」が送出されます	
4	仮登録	0 # を押します	「電話番号AX変更終了しました」「ビッ」が送出されます	注1)
5	未登録	9 # を押します	「終了しました」「ビッ」が送出されます	

注1) 本作業は仮登録です。主装置の設定SWを「運用」側にし、設定ランプが消灯することにより正式登録されます。登録前に主装置の電源が切れた場合、それまで設定した内容は登録されずに無効となります。

- ・誤った番号を入力すると「ピッ」とエラー音が送出されます。
- ・番号の入力は、ガイダンス送出後の「ピッ」を確認後に行ってください。ガイダンス送出中の番号入力は無効です。

ID番号の設定：A50～A59

No	項目	電話機操作	電話機確認	備考
1	設定対象番号の入力	# 2 5 X と押します	「ID番号X変更です」「番号を入力して下さい」「ビッ」が送出されます	X:設定したい登録エリア番号
2	以降、9.3.1表の3～6項のとおりです			

- ・「の」「#」を登録する場合、呼出電話機の呼出ボタンを押します。押した回数分、「の」「#」が登録されます
- ・仮登録時、「ID番号X変更終了しました」「ビッ」が送出されます。

暗証番号の設定：A60

No	項目	電話機操作	電話機確認	備考
1	設定対象番号の入力	# 2 6 0 と押します	「暗証番号変更です」「番号を入力して下さい」「ビッ」が送出されます	
2	以降、9.3.1表の3～6項のとおりです			

- ・仮登録時、「暗証番号X変更終了しました」「ビッ」が送出されます。

呼出モードの設定：A00

No	項目	電話機操作	電話機確認	備考
1	設定対象番号の入力	# 2 0 0 と押します	「呼出モード変更です」「番号を入力して下さい」「ビッ」が送出されます	
2	以降、9.3.1表の3～6項のとおりです			

- ・仮登録時、「呼出モード変更終了しました」「ビッ」が送出されます。

他項目の設定:A70~95

No	項目	電話機操作	電話機確認	備考
1	設定対象番号の入力	# 2 X Xと押します	「番号XX変更です」「番号を入力して下さい」「ビッ」が送出されます	
2	以降、9.3.1表の3~6項のとおりです			

・仮登録時、「番号XX変更終了しました」「ビッ」が送出されます。

<システムデータ設定例>

例えば、Aグループの第一連絡宛先に813-7114を登録したい場合は、以下のように操作します。

No	項目	電話機操作	電話機確認	主装置操作・確認
1	設定対象番号の入力	# 2 1 1と押します	「電話番号A1変更です」「番号を入力して下さい」「ビッ」が送出されます	
2	データの設定	8 1 3 7 1 1 4 #と押します	「確認です。8137114です」「ビッ」が送出されます	
3	仮登録	0 # を押します	「電話番号A1変更終了しました」「ビッ」が送出されます	
4	正式登録	-	-	設定 SW を運用側に切替え、設定ランプ消灯で完了です

9.3.2 システムデータ確認作業

システムデータの設定・変更および確認作業は、以下手順で行います。

各種番号入力は、主装置の「INTEL」コネクタへ接続した電話機で行います。

連絡先電話番号の確認:A11~A43

No	項目	電話機操作	電話機確認	備考
1	確認対象番号の入力	# 1 X Xと押します	「電話番号AX確認です」「ZZZZです」「電話番号AX確認終了しました」が送出されます	XX:設定したい登録エリア番号 Z:設定されている番号

* 誤った番号を入力すると「ビビッ」とエラー音が送出されます。

ID番号の確認:A50~A59

No	項目	電話機操作	電話機確認	備考
1	確認対象番号の入力	# 1 5 Xと押します	「ID番号X確認です」「ZZZZです」「ID番号X確認終了しました」が送出されます	X:設定したい登録エリア番号の末尾

暗証番号の確認:A60

No	項目	電話機操作	電話機確認	備考
1	確認対象番号の入力	# 1 6 0と押します	「暗証番号確認です」「ZZZZです」「暗証番号確認終了しました」が送出されます	

呼出モードの確認:A00

No	項目	電話機操作	電話機確認	備考
1	確認対象番号の入力	# 1 0 0と押します	「呼出モード確認です」「Zです」「呼出モード確認終了しました」が送出されます	Z:設定されているモード、下記のいずれか送出 「インターホンです」 「Aグループです」 「Bグループです」

他項目の設定:A70~95

No	項目	電話機操作	電話機確認	備考
1	確認対象番号の入力	# 1 X Xと押します	「番号XX確認です」「ZZZZです」「番号XX確認終了しました」が送出されます	

9.3.3 システムデータの設定・確認の終了

メッセージの録音やシステムデータの設定・確認作業が終了したら、設定SWを運用側に切替えます。本作業により設定したシステムデータを主装置内のメモリに書込みます。設定ランプが消灯したらシステムデータ登録完了ですので、電話機を主装置の「INTEL」コネクタからはずし、屋内電話機を元に戻して下さい。

注意 登録前に主装置の電源が切れた場合、それまで設定した内容は登録されずに無効となります。

9.3.3表 システムデータ一覧

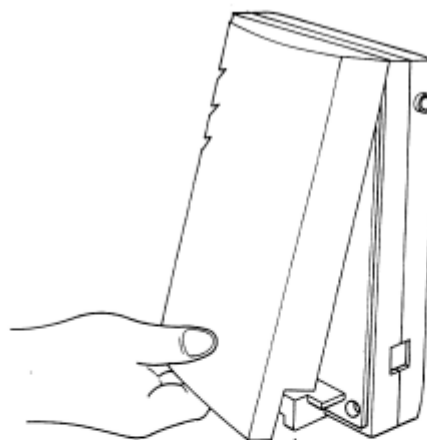
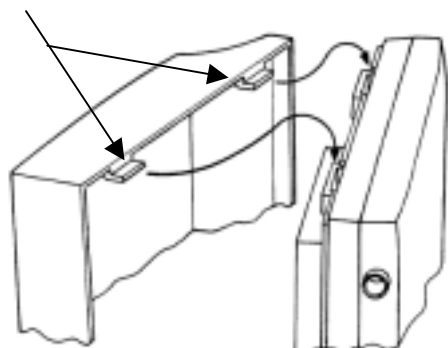
登録エリア	設定項目	登録番号	設定値	初期値	機能詳細		
A11 A12 A13	連絡宛先設定 Aグループ	- - -	第1宛先 第2宛先 第3宛先	未設定	連絡先の電話番号を登録します。最大32桁、0～9が登録可能です。		
A21 A22 A23	連絡宛先設定 Bグループ	- - -	第1宛先 第2宛先 第3宛先				
A41 A42 A43	連絡宛先設定 Dグループ	- - -	第1宛先 第2宛先 第3宛先				
A51 A52 A53 A54	屋外電話機個別 IDコード	- - - -	No.1 IDコード No.2 IDコード No.3 IDコード No.4 IDコード			未設定	屋外電話機の個別 ID コードを登録します。最大16桁、0～9、#が登録可能です。 ・「#」は呼出電話機の呼出ボタンを押すと登録できます ・「#」は音声送出時、「の」になります。
A59	着信応答時IDコード	-	-				
A50	屋外電話機共通 IDコード	-	-				
A60	暗証番号	-	-	未設定	4桁。未登録の場合、テレホン機能およびオンラインによるシステムデータの設定・変更および確認ができません。自動応答モードにおいて、応答後屋外電話機の一斉音声呼出になります。		
A70	第1連絡宛先 呼出時間	0 1	40秒 60秒	0	自動ダイヤル後、相手が応答するまでの時間を設定します。本時間内に応答しなかった場合、次の宛先を呼出します。		
A71	第2連絡宛先 呼出時間	0 1	40秒 60秒	0			
A72	自動切替タイマ (インターホン A,B) 1:インターホン A 2:インターホン B	0 1 2 3 4	10秒 15秒 20秒 30秒 切替なし	41	インターホン機能で屋内電話機を呼出しても応答しない場合、ガイドホン機能に移行するまでの時間です。切替えなしの場合、屋内電話機が応答するまで呼続けます。		
A73	自動応答遅延時間 (ガイドホン機能)	0 1 2 3	即応答 10秒 20秒 30秒	0	ガイドホン機能において、連絡先からの着信に対し応答するまでの時間を設定します。		
A74	自動応答遅延時間 (インターホン機能: 自動切替なしの場合)	0 1 2 3	即応答 10秒 20秒 30秒	1	インターホン機能で、A72 で切替なしを選択した場合において、連絡先からの着信に対し応答するまでの時間を設定します。		
A75	自動応答遅延時間 (インターホン機能: 自動切替ありの場合)	0 1 2 3	即応答 10秒 20秒 30秒	1	インターホン機能で、A72 で切替ありを選択した場合において、連絡先からの着信に対し応答するまでの時間を設定します。		
A76	自動応答復旧時間	0 1 2 3	30秒 60秒 180秒 360秒	0	自動応答モード、テレホン機能において、暗証番号や各種番号を入力する際の制限時間を設定します。本時間を経過すると回線を開放します。		
A77	長時間通話監視時間	0 1 2 3	10分 20分 30分 監視しない	3	屋外電話機と連絡先との通話時間を規定します。本時間を経過すると、終話予告音が出送されます。通話延長しないと通話を終了します。		

A78	センサ入力検出遅延時間 	0 1 2 3	遅延なし 5秒 10秒 20秒	00	各種センサからの異常信号に対し、設定した時間以上連続して入力があった場合、有効と判断します。遅延なしの場合、連続0.3秒以上の入力にて有効と判断します。
A79	IDコード送出回数	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	0回 1回 2回 3回 4回 5回 6回 7回 8回 9回 10回	2	登録したIDコードの送出回数を設定します。0回と設定した場合、即通話に移行します。
A80	接続済み屋外電話機No.	1 2 3 4	屋外電話機1 屋外電話機2 屋外電話機3 屋外電話機4	1	接続されている屋外電話機No.を設定します。実際に屋外電話機が接続されていても、本設定と一致していなければ使用できません。
A81	IDコード送出方式	0 1 2	音声 DTMF DTMF + 音声	000 000 000	ガイドホン機能でIDコードを送出する方式を設定します。自動応答、テレホン機能時のIDコードは、必ず音声にて送出します。
A82	屋内電話機 屋外電話機呼出方式	0 1	音声 信号	0	インターホン機能で、屋外電話機の呼出方式を設定します。 音声方式:屋外電話機のスピーカからの「ピンポン」に続いて音声を送出します。 信号方式:「ジリリ」を送出します。
A83	ダイヤル種別その他 1桁目:ダイヤル種別 2桁目:応答モード 3桁目:インターホン機能での応答有無 4桁目:録音音声使用有無	1:0 1 2	DP/10PPS DP/20PPS PB	1	回線のダイヤル種別を設定します。ISDN回線の場合、PBに設定するとより早く呼出動作を行います。
		2:0 1 2	自動応答 手動応答 応答しない	0	連絡先からの呼出に対し応答可否を設定します。 自動応答:呼出に対し自動応答します。 手動応答:呼出に対し自動応答せず、屋外電話機のスピーカから「ジリリ」を送出します。 応答しない:呼出に対し応答しません。
		3:0 1 2 4:0 1	応答しない 自動切替時 応答 応答する 固定音声 録音音声	0 0 0	インターホン機能で、呼出に対し応答可否を設定します。 応答しない:呼出に対し応答しません。 切替時応答:A72で切替ありを選択した場合、呼出に対し応答します。 応答する:呼出に対し自動応答します。
				0	IDコードを音声で送出する際の手段を設定します。 固定音声:主装置に登録済み音声を送出します。 録音音声:主装置に録音した肉声を送出します。
A90	衝突検出有無	0 1	検出する 検出しない	0	呼出操作から連絡先が応答するまでの時間を短縮したい場合、「検出しない」を設定します。 連絡先からの呼出に対し、主装置が自動ダイヤルすると着信に衝突し、正常な動作が保証されません。
A91	呼出ボタン押下有無	0 1	呼出ボタン押下 オフックのみ	0	呼出操作を簡略したい場合、「オフックのみ」を設定すると、オフックのみで呼出ボタンを押さなくても呼出動作を行います。
A92	データ方式	0 1	データ1方式 データ2方式	0	*設定変更しないで下さい。正常な動作が出来なくなります。
A93	回線種別	0 1	アナログ回線 ISDN回線	0	ISDN回線に接続する場合、連絡先電話番号に「#」を自動的に付加する機能です。本設定により、ダイヤル送出時間が短縮されます。
A94	応答方式	0 1	一般応答 特殊応答	0	自動応答、テレホン機能において、暗証番号一致から番号入力までの時間で、動作を切替える機能です。 一般応答:暗証番号一致から番号入力までの時間制限はありません。 特殊応答:暗証番号一致から番号入力までの時間は3秒間。3秒経過で屋外電話機の一斉音声呼出となります。
A95	外部スイッチ接続	0 1	スイッチボックス 市販スイッチ	0	主装置のSW-BOX1,2に接続する機器を設定します。 市販スイッチ(タイマースイッチや切替スイッチ等)でロック式を使用する場合は「1」に設定します。

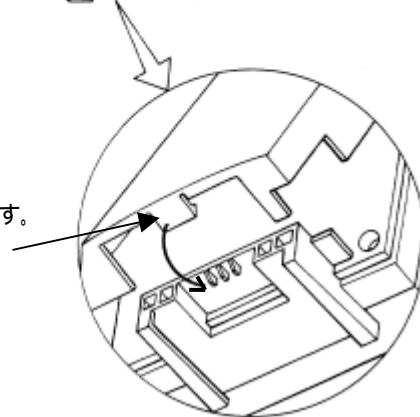
10 . 設置・配線チェック

配線・設置工事およびシステムデータの設定・変更が終了したら、再度配線の点検を行ってください。
点検の結果、問題なければ下図のように主装置のパネルを実装して下さい。

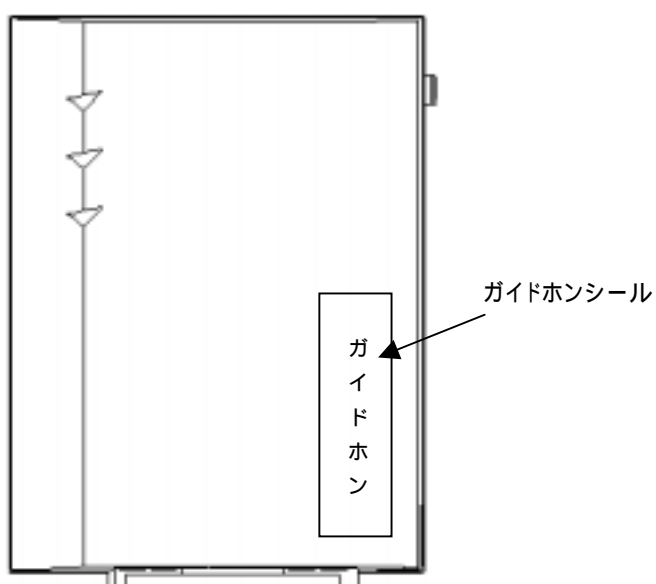
本体カバーの上部つめをハウジングに引っ掛けます。
奥までしっかりとはめ込んでください



本体カバーの下部つめをハウジングに引っ掛けます。
パチッと音がするまではめ込んでください。



パネル実装後、下図のように「ガイドホンシール」を貼り付けて下さい。



11. 開通試験の実施

別表1にてまとめられたお客様の要求仕様のとおりシステムデータおよび接続がされているかを確認します。

動作の確認方法については、後述の14項を参照して下さい。

下記のように、お客様の要求仕様に合ったシステムデータの選定がされているか、動作確認を行ってください。

<使用方法>

ガイドホンCD7Dお客様要望機能チェック表(添付品)に対し、**レ点**でチェックされた要求機能や必要事項に対し、**レ**を塗りつぶしていき、それらを満足しているかをチェックします。

ガイドホンCD7D お客様要望機能チェック表(設定編P1)

1	屋外電話機	<input checked="" type="checkbox"/> 1台 <input type="checkbox"/> 2台以上	<input type="checkbox"/> A80を設定
2	モード切替	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する <input type="checkbox"/> 使用しない	<input checked="" type="checkbox"/> 市販切替スイッチ使用 <input type="checkbox"/> CD7Dスイッチボックス使用 <input type="checkbox"/> A95を1に変更
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">レ点を塗りつぶし、動作確認を実施</div>			
	<input checked="" type="checkbox"/> アナログ回線 <input type="checkbox"/> ISDN回線 <input type="checkbox"/> 通報先が3箇所以下 <input checked="" type="checkbox"/> A/Bグループ設定を行う <input type="checkbox"/> 第一/第二宛先の呼出時間は30秒 <input type="checkbox"/> 第一/第二宛先の呼出時間は60秒 <input type="checkbox"/> IDコードを送出する	<input checked="" type="checkbox"/> PB <input type="checkbox"/> DP <input type="checkbox"/> A93を1に変更 <input type="checkbox"/> A11~A13を設定	<input type="checkbox"/> 屋外電話機個別ID

12. ISDN回線(INSネット64)を使用する場合

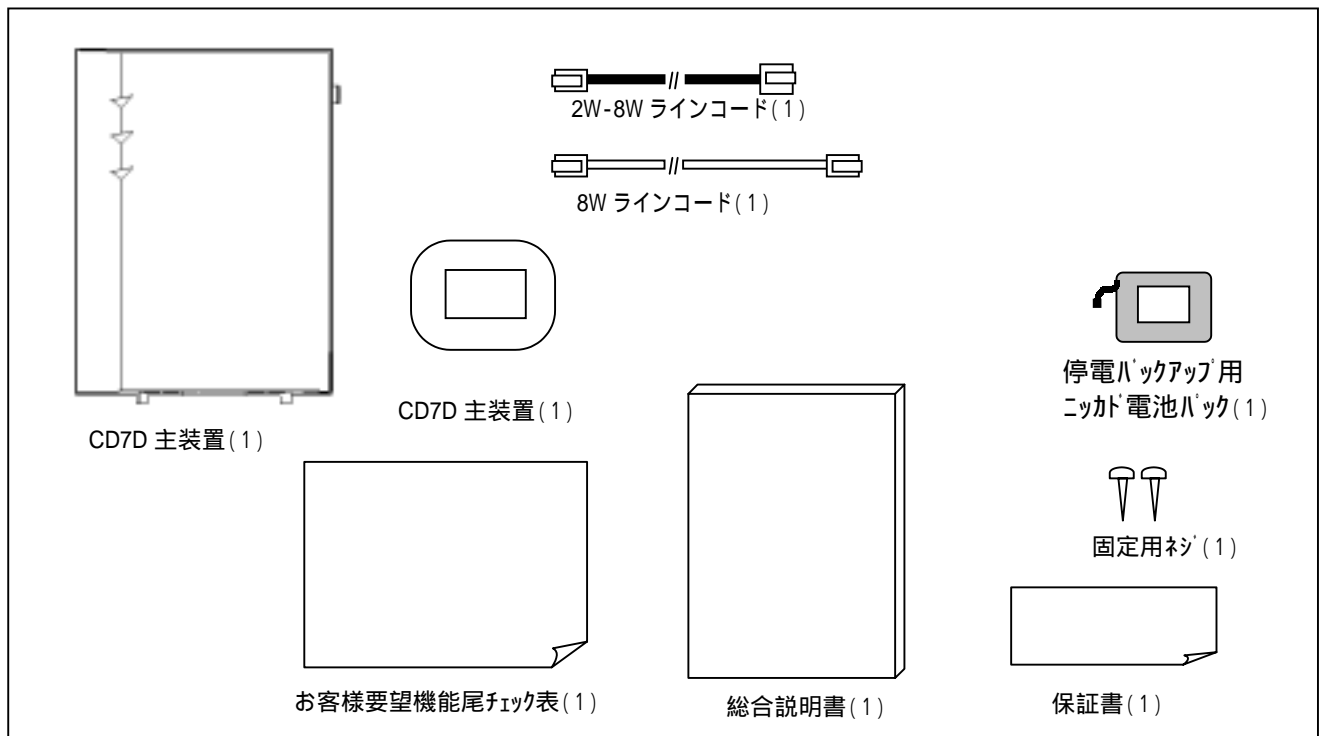
ISDN回線(INSネット64/INSネット64・ライト)に接続して使用する場合、CD7D主装置(ISDN)を使用します。

CD7D主装置に対しては、ISDN回線を接続できません。また電話回線で運用中の主装置をISDN回線用にバージョンアップできません。別途CD7D主装置(ISDN)を購入して下さい。

- 注意**
- ・回線のインターフェースはS/T点接続のみです。U点は接続できません。
 - ・INSネット64において、NTTが提供する各種サービス(「ダイヤルインサービス」「フレックスホン」「INSボイスワープ」等)のサービス(付加機能)は使用できません。
 - ・確実な連絡や通報を行うために、既設のDSUへは多数のISDN端末を接続しないで下さい。

12.1 構成品の確認

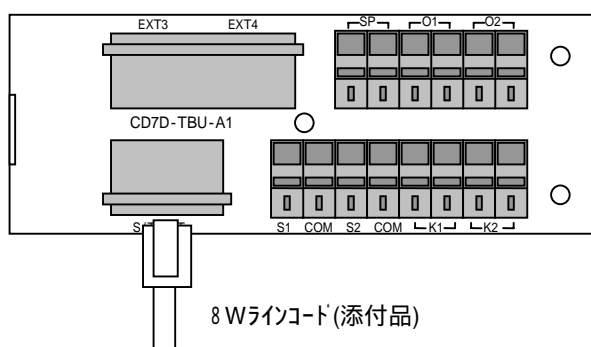
構成品を取出し、全てそろっていることを確認します。



12.2 接続のしかた

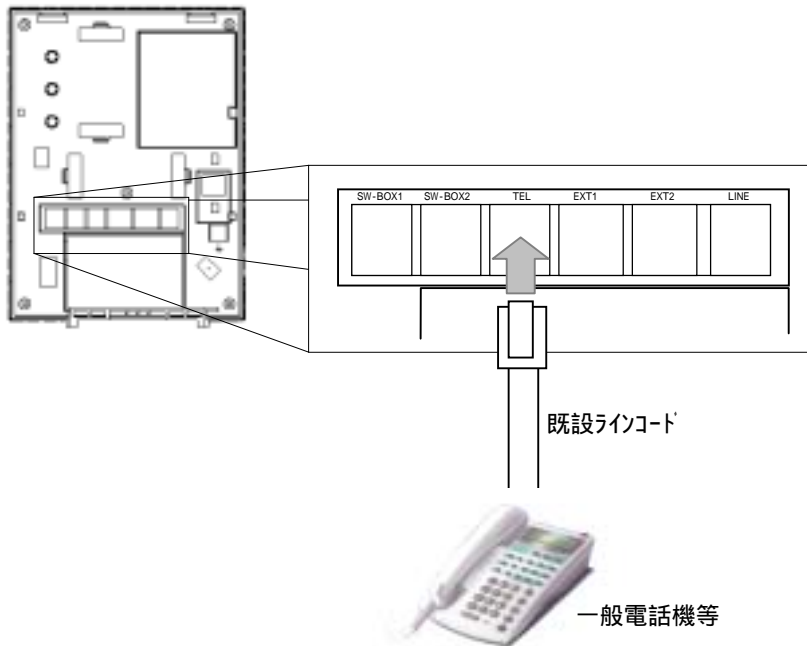
12.2.1 ISDN回線の接続

ISDN回線(S/T点)は、TBUのモジュラー端子[S/T]と既設のDSUを、添付の8Wラインコードにて接続します。



12.2.2 アナログ端末の接続

アナログ端末は、本体のモジュラー端子[TEL]に既設のラインコードにて接続します。



12.3 動作の確認

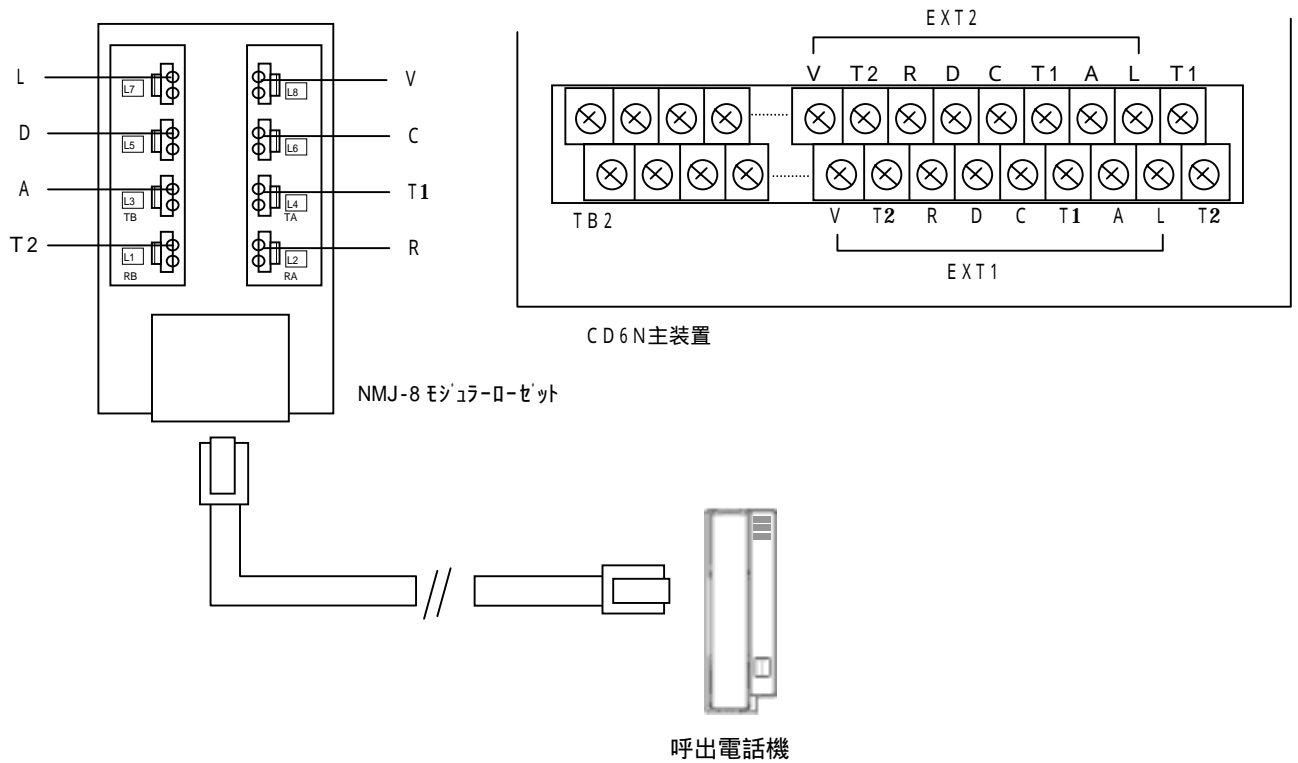
別表1にてまとめたお客様の要求仕様のとおりシステムデータおよび接続がされているかを確認します。
詳細は10項を参照して下さい。動作の確認方法については、14項を参照して下さい。

13. CD6N主装置への呼出電話機の接続

CD6N主装置に対し、CD5-「」呼出電話機のかわりにCD7D呼出電話機を収容できます。

13.1 屋外電話機としての接続

CD6N主装置のEXT1およびEXT2に対し、下記配線で呼出電話機を収容することができます。



13.2 屋内電話機としての接続

CD6N主装置に対し、CD7D呼出電話機を収容することは出来ません。

別途、販売代理店や最寄の営業所にお問い合わせ下さい。

取扱説明編

14. 機能および動作概要

14.1 ガイドホン機能

スイッチボックスの「AグループまたはBグループ」ボタンを1秒以上押すか、市販切替スイッチをブレイクすると、当該LEDが点灯し、ガイドホン機能になります。電源投入直後は必ず本機能から開始します。

14.1.1 屋外電話機から連絡先(管理センター、警備会社等)を呼出す場合

屋外電話機の受話器を上げると、「ご使用になっている電話機の呼出ボタンを押して下さい」というガイダンスが送出されます。同時に使用中の屋外電話機を除く全屋外電話機のランプが点灯します。

呼出ボタンを押すと「ただいま連絡しております。受話器を持ったまましばらくお待ち下さい」というガイダンスがIDコード送出完了まで連続送出されます。

Aグループ/Bグループのいずれか選択されているグループの第1連絡宛先に対し、自動ダイヤルします。

第1連絡宛先が話中、または所定時間呼んでも相手が電話に出られない場合、1度回線を開放し第2連絡宛先に自動ダイヤルします。第2連絡宛先が登録されていない場合は、繰り返し第1連絡宛先に自動ダイヤルします。

第2連絡宛先が話中、または所定時間呼んでも相手が電話に出られない場合、1度回線を開放し第3連絡宛先に自動ダイヤルします。第3連絡宛先が登録されていない場合は、繰り返し第1/第2連絡宛先に自動ダイヤルします。

いずれも応答しなかった場合、回線を開放し呼出動作を終了します。

いずれかの連絡先が応答した場合、IDコードを送出します。

IDコードは、音声、DTMF、DTMF+音声の3方式から1つを選択します。

方式	機能詳細	送出例
音声	音声合成音を送出する方式	「こちらはイチ・ニ・サンです」
DTMF	DTMF信号で送出する方式	「1 2 3」
DTMF+音声	上記2つの組み合わせで送出する方式	「1 2 3」「こちらはイチ・ニ・サンです」

IDコードは「0～9」の数字と「の」の組み合わせで送出されます。

IDコードが「123#4」の場合、音声では「イチ・ニ・サン・の・ヨン」と送出されます。「の」はDTMF方式およびDTMF+音声の場合、「#」として送出されます。

音声による方式は以下2つの手段から選択します。

方式	機能詳細	備考
固定音声	あらかじめ主装置内に登録されている、女性の音声データを結合し送出する方式	
録音音声	主装置に肉声を録音し送出する方式	録音エリア:フレーズ01

例えばフレーズ01に「こちらは です」と録音すると、上記の「イチ・ニ・サン・の・ヨン」の代わりに録音したメッセージを送出することが出来ます。

IDコード送出後、連絡先と当該屋外電話機で通話を行います。

通話は時間制限なしに行えますが、設定により時間制限を設けることが出来ます。(制限なし、10分、20分、30分から選択)時間制限を設定した場合、設定時間を経過すると終話予告音「ピー」が一定間隔で送出されます。

屋外電話機の呼出ボタンを押すか、連絡先からDTMFの「#」を入力すると終話予告音は停止し、通話時間を延長することができます。延長は何回でも行うことが出来ます。

使用中の屋外電話機の受話器を元に戻すと、通話を終了します。

他の屋外電話機のランプが点灯中に受話器を上げると、当該電話機のスピーカから「ただいま使用中です。受話器を元に戻し使用中ランプが消えてからおかけ直し下さい」というガイダンスが送出されます。

14.1.2 連絡先から屋外電話機を呼び出す場合

連絡先からの呼出に対し、次の3つのシステム応答モードから選択します。

(1) 自動応答モード

連絡先からの呼出に対し、自動応答後に屋外電話機を呼出すモードです。

屋外電話機の呼出方法は、音声による一斉呼出/個別呼出と、信号による一斉呼出/個別呼出があります。

連絡先からの呼出に対し、主装置は即自動応答し、IDコード「こちらは です」を送出後、「暗証番号を入力して下さい」というガイダンスを送出します。設定により自動応答時間を変更できます。(0秒、10秒、20秒、30秒から選択)IDコードは必ず音声で送ります。

暗証番号を入力します。暗証番号を間違えた場合は、「*」を押してから暗証番号を入れ直します。30秒以内に暗証番号が入力されない場合、回線を開放します。

あらかじめ暗証番号を設定していない場合、自動応答後に屋外電話機の一斉音声呼出になります。

暗証番号が一致した場合、「番号を入力して下さい」というガイダンスが送出されます。

下表に示す制御番号を入力すると、屋外電話機を音声または信号で呼出します。

制御番号	機能	備考
10	一斉音声呼出	全屋外電話機のスピーカーから「ピンポン」送出後、音声で呼出を行います。
11	屋外電話機 No.1 音声呼出	対象となる屋外電話機のスピーカーから「ピンポン」送出後、音声で呼出を行います。
12	屋外電話機 No.2 音声呼出	
13	屋外電話機 No.3 音声呼出	
14	屋外電話機 No.4 音声呼出	
20	一斉信号呼出	全屋外電話機のスピーカーから「ジリリン」を送出し、呼出を行います。
21	屋外電話機 No.1 信号呼出	対象となる屋外電話機のスピーカーから「ジリリン」を送出し、呼出を行います。
22	屋外電話機 No.2 信号呼出	
23	屋外電話機 No.3 信号呼出	
24	屋外電話機 No.4 信号呼出	

呼出されている屋外電話機の受話器を上げると、連絡先と当該屋外電話機で通話出来ます。

通話時間制限を設定した場合、設定時間を経過すると終話予告音「ピー」が一定間隔で送出されます。

屋外電話機の呼出ボタンを押すか、連絡先からDTMFの「#」を入力すると終話予告音は停止し、通話時間を延長することができます。延長は何回でも行うことが出来ます。

使用中の屋外電話機の受話器を元に戻すと、通話を終了します。

他の屋外電話機のランプが点灯中に受話器を上げると、当該電話機のスピーカから「ただいま使用中です。受話器を元に戻し使用中ランプが消えてからおかけ直し下さい」というガイダンスが送出されます。

連絡先から強制的に通話を終了したい場合、「#99」と入力すると主装置は通話を終了し、回線を開放します。

(2) 手動応答モード

連絡先からの呼出に対し、主装置は自動応答せずに屋外電話機を呼出すモードです。

連絡先からの呼出に対し主装置は応答せず、全屋外電話機のスピーカから「ジリリン」を送ります。

連絡先からの呼出が終了かいずれかの屋外電話機が応答するまで、「ジリリン」を送ります。

いずれかの屋外電話機の受話器を上げることにより、連絡先と通話出来ます。通話後の動作は前記の通りです。

主装置に電話機やFAX等の通信装置を接続している場合は、それらも鳴動します。

(3) 応答しないモード

連絡先からの呼出に対し、応答しないモードです。

連絡先からの呼出に対し主装置は応答せず、屋外電話機も鳴動しません。

主装置に電話機やFAX等の通信装置を接続している場合は、それらは鳴動します。

14.2 インターホン機能

スイッチボックスの「インターホン」ボタンを1秒以上押すか、市販切替スイッチをマークすると、当該LEDが点灯し、インターホン機能になります。

14.2.1 屋外電話機から屋内電話機を呼び出す場合

屋外電話機を受話器を上げると「ご使用になっている電話機の呼出ボタンを押して下さい」というガイダンスが送出されます。同時に使用中の屋外電話機を除く全屋外電話機のランプが点灯します。

屋外電話機の呼出ボタンを押すと、受話器から「トゥルルル」が屋内電話機応答まで連続送出されます。

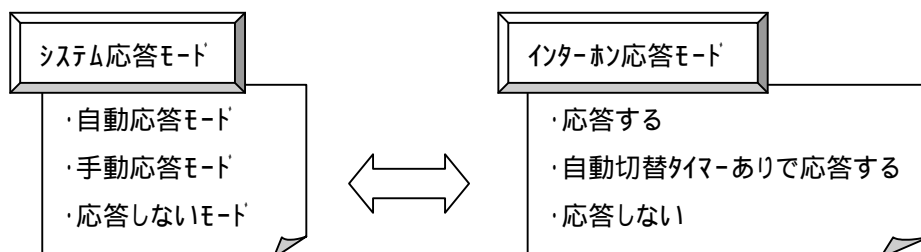
屋内電話機のスピーカから「ジリリリン」が送出され、屋外電話機を受話器を上げると通話できます。

所定時間呼び出しても屋内電話機が応答しない場合、自動的にガイドホン機能に切替えることができます。切替時間は10秒、15秒、20秒、30秒、切替なしの中から選択できます。

14.2.2 連絡先から屋外電話機を呼び出す場合

連絡先からの呼出に対し、次の3つの応答モードから選択します。

インターホン機能の場合、下記組み合わせで応答可否を設定します。



システム応答モードで「応答しないモード」と設定すると、いずれの機能(ガイドホン/インターホン/テレコン)でも応答しません。インターホン機能にて応答させるには、システム応答モードを「自動応答モード」「手動応答モード」のいずれかを選択する必要があります。

インターホン応答モードで「応答する」と設定すると、連絡先からの呼出しに対しガイドホン機能と同一動作を行います。インターホン応答モードで「自動切替タイマーありで応答する」と設定すると、連絡先からの呼び出しに対し、自動切替タイマーをありに設定している場合のみ応答します。自動切替タイマーなしに設定している場合、応答しません。

インターホン応答モードで「応答しない」と設定すると、インターホン機能では応答しません。

14.2.3 屋内電話機から屋外電話機を呼び出す場合

屋内電話機から屋外電話機を呼出す場合、ガイドホン機能同様に音声による一斉呼出、および信号による一斉呼出があります。屋外電話機個別の呼出は出来ません。

(1) 音声による一斉呼出

屋内電話機を受話器を上げて、呼出ボタンを押します。

「ピンポン」が聞こえた後、屋内電話機からの音声が、全屋外電話機のスピーカから送出されます。

いずれかの屋外電話機を受話器を上げると、屋内電話機と通話できます。

(2) 信号による一斉呼出

屋内電話機を受話器を上げて、呼出ボタンを押します。

屋内電話機からは「トゥルルル」が聞こえ、全屋外電話機のスピーカから「ジリリリン」が送出されます。

いずれかの屋外電話機を受話器を上げると、屋内電話機と通話できます。

14.3 センサー通報動作

ガイドホン機能/インターホン機能において、センサー入力(無電圧メーク接点入力)が所定時間連続して動作するとセンサー入力と判断し、通報を行います。

センサー入力(無電圧メーク接点入力)が、所定時間(0.3秒、5秒、10秒、30秒のいずれかを設定)連続して動作するとセンサー入力が有効と判断します。

Dグループに設定されている通報先に通報を行います。

Dグループ内に設定されている通報先(最大3宛先)に対し、いずれかが応答するまで3サイクル通報します。

いずれかが応答すると、音声またはDTMFで内容を告知します。

音声(固定/録音音声)による通報の場合、通報メッセージを最大20回連続送出します。

録音音声の場合、フレーズ1に録音したIDコード+フレーズ2または3で録音した通報メッセージを送出します。

項目	固定音声	録音音声	DTMF	備考
センサ1起動時	こちらは です。 非常発生イチ	フレーズ' 01+フレーズ' 02	+[#11]	・ IDコード ・ 音声の場合、最大20回送出 ・ DTMFの場合、1回送出
センサ2起動時	こちらは です。 非常発生二	フレーズ' 01+フレーズ' 03	+[#12]	

Dグループに通報宛先が未登録の場合、センサー入力は無効となり、通報を行いません。

通報メッセージを送出完了するか、通報先が先に電話を切ると、通報を完了します。

通報メッセージを最低1サイクル聞かないうちに通報先が電話を切った場合、異常終了と判断して、再度通報を行います。

センサー通報中に別のセンサー入力があった場合、通報完了後に通報動作を開始します。センサー通報中の同一センサー入力は無効となります。例えば、センサー1通報中に再度センサー1が動作した場合は、その入力は無効となります。

14.4 テレコン機能による制御

連絡先からの呼出に対し、自動応答ありに設定されている場合、応答後に連絡先からDTMF信号を入力すると主装置内の接点や外部スピーカの制御が可能です。下表の手順で各種制御を行います。

テレコン制御

No	項目	操作側	主装置側	備考
1	接続	主装置が接続されている電話回線に電話をかけます	着信に自動応答し「こちらは です」「暗証番号を入力して下さい」「ビッ」を送出します	・登録されているIDコード
2	暗証番号入力	登録されている暗証番号を入力します □ □ □ □ #	暗証番号が一致したら「番号を入力して下さい」「ビッ」を送出します	間違った場合、*を入力し、暗証番号を入直します。
3	番号入力	# を押します	「番号を入力して下さい」「ビッ」が送出されます	
4	制御番号の入力	# 3 X を入力します	制御コードに従い動作を行います。 1:O1リレーを1秒間メーク 2:O2リレーを1秒間メーク 3:外部スピーカへ音声出力 4:外部スピーカへの音声停止	X:制御コード
5	制御完了	# 9 9を入力します	テレコン制御を完了し、回線を開放します	

・暗証番号が未登録の場合、テレコン制御は出来ません。

・外部スピーカへ音声出力中に制御コードを受信すると、一桁目の「#」受信で一旦音声出力を停止します。

音声停止コマンド以外であれば、再度音声出力を再開します。

・外部スピーカへの音声出力中のまま制御完了した場合、強制的に音声を停止します。

・所定時間入力がなかった場合、テレコンを終了し、回線を開放します。

14.5 オンラインによるシステムデータの設定・変更および確認

連絡先からの呼出に対し、自動応答ありに設定されている場合、応答後に連絡先からDTMF信号を入力すると、オンラインによるシステムデータの設定・変更および確認を行うことが出来ます。下表の手順で行います。

注意 オンラインによるシステムデータの設定・変更および確認中、本システムは運用停止となるため、一連の通報が出来なくなります。事前にお客様の了解を得てから、運用に支障のないよう十分注意して下さい。

14.5.1 オンラインによるシステムデータの設定・変更

以下の手順で、オンラインによるシステムデータの設定・変更を行います。

連絡先電話番号の設定:A11～A43

12.1表 オンラインによるシステムデータ設定・変更手順

No	項目	電話機操作	電話機確認	備考
1	接続	主装置が接続されている電話回線に電話をかけます	着信に自動応答し「こちらは です」「暗証番号を入力して下さい」「ピッ」を送出します	:登録されているIDコード
2	暗証番号入力	登録されている暗証番号を入力します □ □ □ □ #	暗証番号が一致したら「番号を入力して下さい」「ピッ」を送出します	間違った場合、*を入力し、暗証番号を入れ直します。
3	番号入力	# を押します	「番号を入力して下さい」「ピッ」が送出されます	
4	設定対象番号の入力	# 2 X X と押します	「電話番号AX変更です」「番号を入力して下さい」「ピッ」が送出されます (X:左記で入力した番号の末尾)	XX:設定したい登録エリア番号
5	データの設定	Z Z Z Z # と押します	「確認です。ZZZZです」「ピッ」が送出されます	Z:設定したい内容
6	設定内容の再確認	# を押します	「ZZZZです」「ピッ」が送出されます	
7	仮登録	0 # を押します	「電話番号AX変更終了しました」「ピッ」が送出されます	注1)
8	未登録	9 # を押します	「終了しました」「ピッ」が送出されます	
9	設定・変更終了	# 9 9 と押します	(回線開放)	

注1)本作業は仮登録です。「#」「9」「9」を受信することにより正式登録されます。登録前や仮登録中に、主装置の電源が切れた場合、それまで設定した内容は登録されずに無効となります。

・誤った番号を入力すると、「ピッ」とエラー音が送出されます。

・暗証番号が未登録の場合、オンラインによるシステムデータの設定・変更および確認は出来ません。

ID番号の設定:A50～A59

No	項目	電話機操作	電話機確認	備考
1	設定対象番号の入力	# 2 5 X と押します	「ID番号X変更です」「番号を入力して下さい」「ピッ」が送出されます	X:設定したい登録エリア番号
2	以降、12.1表の4～8項のとおりです			

・仮登録時、「ID番号X変更終了しました」「ピッ」が送出されます。

暗証番号の設定:A60

No	項目	電話機操作	電話機確認	備考
1	設定対象番号の入力	# 2 6 0 と押します	「暗証番号変更です」「番号を入力して下さい」「ピッ」が送出されます	
2	以降、12.1表の4～8項のとおりです			

・仮登録時、「暗証番号X変更終了しました」「ピッ」が送出されます。

呼出モードの設定:A00

No	項目	電話機操作	電話機確認	備考
1	設定対象番号の入力	# 2 0 0 と押します	「呼出モード変更です」「番号を入力して下さい」「ビッ」が送出されます	
2	以降、12.1表の4～8項のとおりです			

・仮登録時、「呼出モード変更終了しました」「ビッ」が送出されます。

他項目の設定:A70～95

No	項目	電話機操作	電話機確認	備考
1	設定対象番号の入力	# 2 X X と押します	「番号XX変更です」「番号を入力して下さい」「ビッ」が送出されます	
2	以降、12.1表の4～8項のとおりです			

・仮登録時、「番号XX変更終了しました」「ビッ」が送出されます。

<システムデータ設定例>

例えば、暗証番号1234で、Aグループの第一連絡宛先に813-7114を登録したい場合は、以下のように操作します。

No	項目	電話機操作	電話機確認	備考
1	接続	主装置が接続されている電話回線に電話をかけます	「こちらは です」「暗証番号を入力して下さい」「ビッ」を送出します	
2	暗証番号入力	1 2 3 4 #	「番号を入力して下さい」「ビッ」を送出します	
	番号入力	# を押します	「番号を入力して下さい」「ビッ」が送出されます	
2	設定対象番号の入力	# 2 1 1 と押します	「電話番号A1変更です」「番号を入力して下さい」「ビッ」が送出されます	
3	データの設定	8 1 3 7 1 1 4 # と押します	「確認です。8137114です」「ビッ」が送出されます	
4	仮登録	0 # を押します	「電話番号A1変更終了しました」「ビッ」が送出されます	
5	設定・変更終了	# 9 9 と押します	(回線開放)	

14.5.2 オンラインによるシステムデータの確認

以下の手順で、オンラインによるシステムデータの確認を行います。

連絡先電話番号の設定:A11～A43

11.5.2表 オンラインによるシステムデータ確認手順

No	項目	操作側	主装置側	備考
1	接続	主装置が接続されている電話回線に電話をかけます	着信に自動応答し「こちらは です」「暗証番号を入力して下さい」「ビッ」を送出します	:登録されているIDコード
2	暗証番号入力	登録されている暗証番号を入力します □ □ □ □ #	暗証番号が一致したら「番号を入力して下さい」「ビッ」を送出します	間違った場合、*を入力し、暗証番号を入れ直します。
3	番号入力	# を押します	「番号を入力して下さい」「ビッ」が送出されます	
3	確認対象番号の入力	# 1 X X を入力します	「電話番号AX確認です」「YYYYです」「電話番号AX確認終了しました」「ビッ」を送出します	X:設定したい登録エリア番号の末尾 Y:設定されているデータ
4	確認完了	# 9 9 を入力します	オンラインによる確認作業を完了し、回線を開放します	

ID番号の確認:A50~A59

No	項目	電話機操作	電話機確認	備考
1	確認対象番号の入力	# 1 5 Xと押します	「ID番号X確認です」「ZZZZです」「ID番号X確認終了しました」「ビッ」が送出されます	X:設定したい登録エリア番号の末尾

暗証番号の確認:A60

No	項目	電話機操作	電話機確認	備考
1	確認対象番号の入力	# 1 6 0と押します	「暗証番号確認です」「ZZZZです」「暗証番号確認終了しました」「ビッ」が送出されます	

呼出モードの確認:A00

No	項目	電話機操作	電話機確認	備考
1	確認対象番号の入力	# 1 0 0と押します	「呼出モード確認です」「Zです」「呼出モード確認終了しました」「ビッ」が送出されます	Z:設定されているモード、下記のいずれか送出 「インターホンです」 「Aグループです」 「Bグループです」

他項目の設定:A70~95

No	項目	電話機操作	電話機確認	備考
1	確認対象番号の入力	# 1 X Xと押します	「番号XX確認です」「ZZZZです」「番号XX確認終了しました」「ビッ」が送出されます	

<システムデータ確認例>

例えば、暗証番号1234で、Aグループの第一連絡宛先を確認したい場合は、以下のように操作します。

No	項目	操作側	主装置側	備考
1	接続	主装置が接続されている電話回線に電話をかけます	着信に自動応答し「こちらは で す」「暗証番号を入力して下さい」「ビッ」を送出します	:登録されているIDコード
2	暗証番号入力	1 2 3 4 #	暗証番号が一致したら「番号を入力して下さい」「ビッ」を送出します	
3	確認対象番号の入力	# 1 1 1を入力します	「電話番号A1確認です」「8137114です」「電話番号A1確認終了しました」「ビッ」を送出します	
4	確認完了	# 9 9を入力します	オンラインによる確認作業を完了し、回線を開放します	

14.5.3 システムデータの設定・変更および確認の終了

システムデータの設定・変更および確認作業が終了したら、「#」「9」「9」を入力します。本作業により、回線を解放後、設定したシステムデータを主装置内のメモリに書込みます。

15 . 保守

15.1 電池の交換

主装置には停電時のフルバックアップ用およびメモリバックアップ用の充電電池が実装されています。
下記のように、定期的に電池の交換が必要です。

15.1.1 停電電池

停電時にシステムのフルバックアップを行うための充電電池です。

(1) 電池特性

本電池はニッカド電池です。購入時は完全充電されていません。

充電時間は約48時間です。その間は電源コードを抜かないで下さい。

バックアップ時間は約5時間待機後、約10分間のガイドホン通話が可能です。

電池の寿命は3年です。必ず3年毎に交換する必要があります。

本電池は専用電池です。購入の際は販売代理店またはお近くの営業所へ連絡して下さい。

(2) 交換方法

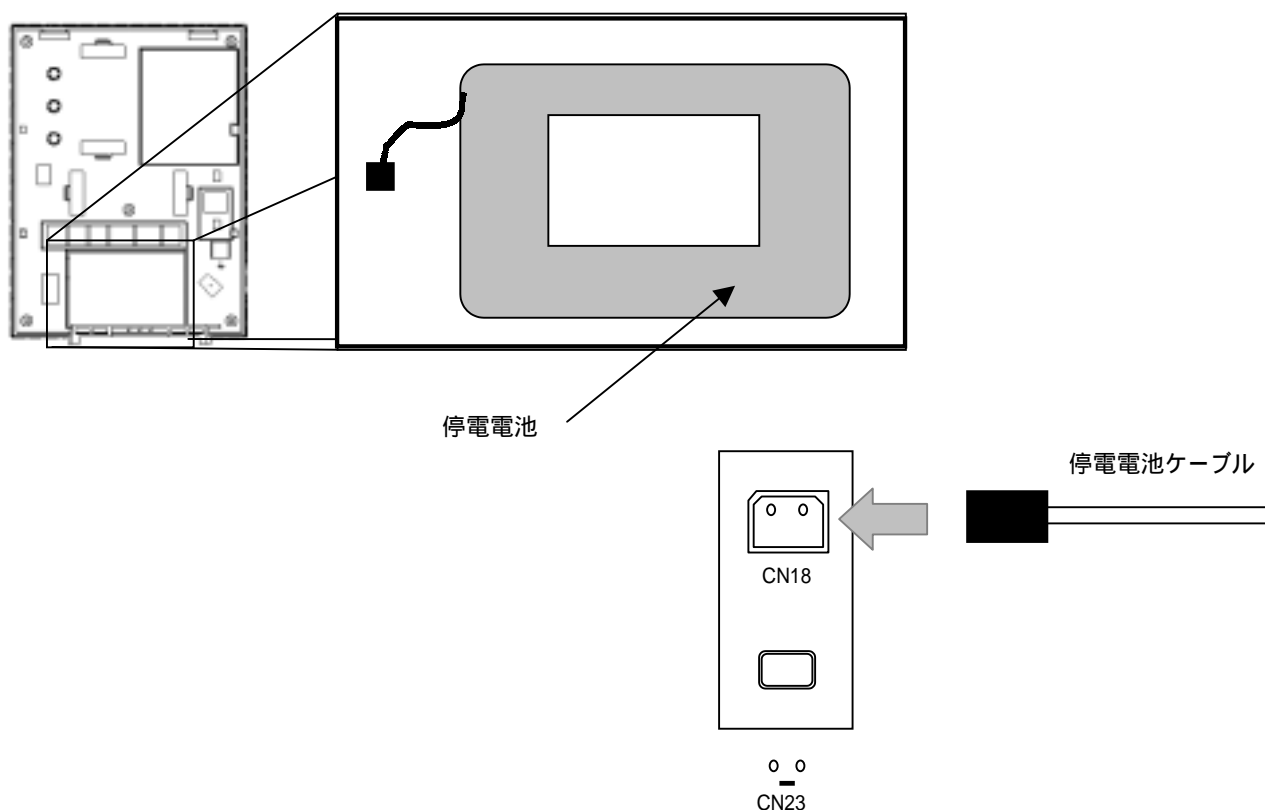
本体パネルを外します。

電池を収容部から外し、電池ケーブルを引き抜きます。この際、ケーブルを引っ張るのではなく、コネクタをつかんでから引き抜いてください

新しい電池を収容部に装着後、コネクタにキチンと差込みます。

本体パネルを装着します。

注意 ・装着向きに注意し、必ず所定のコネクタに差込んでください。



15.1.2 メモリ電池

停電時にメモリ(録音した音声)のバックアップを行うための充電電池です。

(1) 電池特性

本電池はニッケド電池です。購入時は完全充電されていません。

充電時間は約48時間です。その間は電源コードを抜かないで下さい。

メモリバックアップ時間は約48時間です。

電池の寿命は3年です。必ず3年毎に交換する必要があります。

本電池は専用電池です。購入の際は販売代理店またはお近くの営業所へ連絡して下さい。

(2) 交換方法

本体パネルを外します。

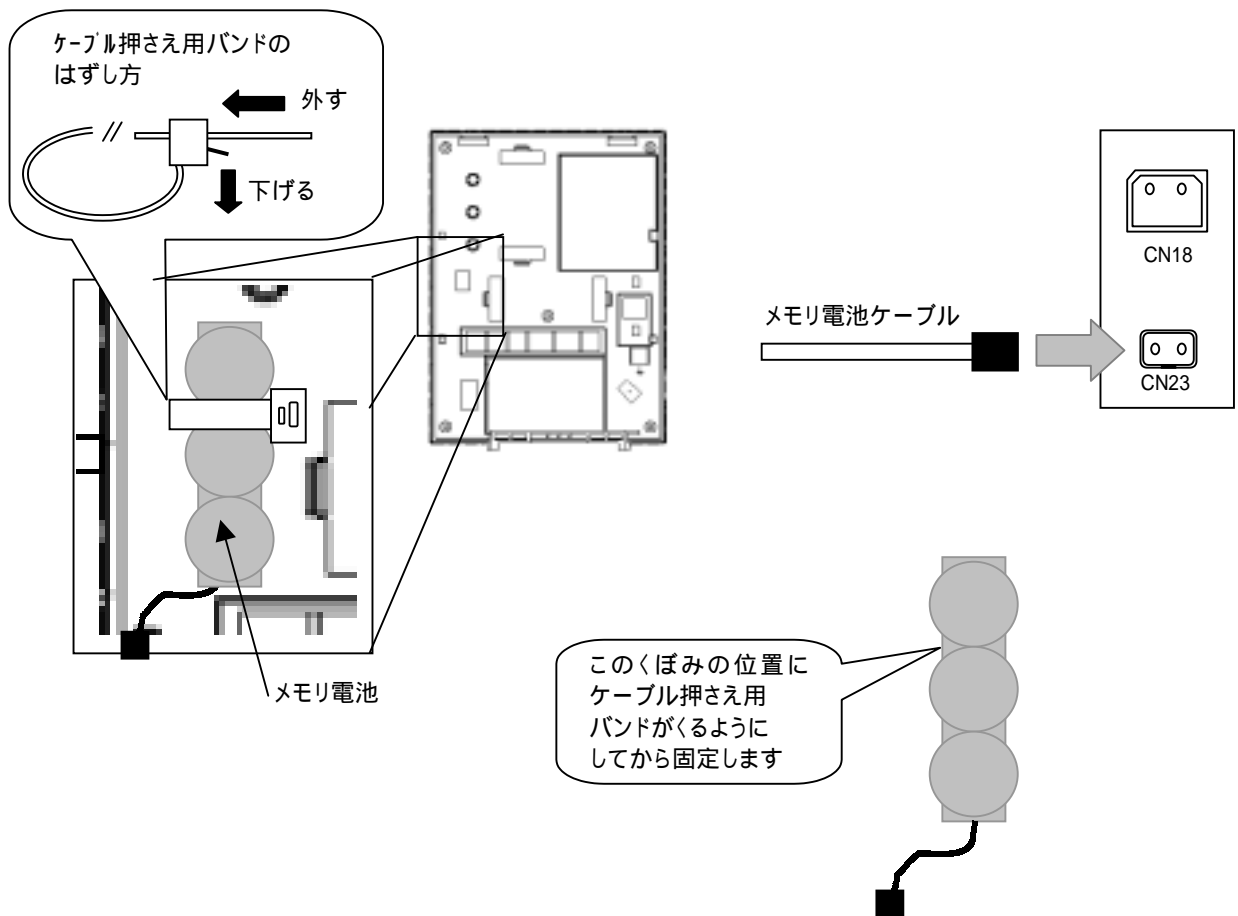
下図のようにケーブル押さえ用バンドを緩めてからメモリ電池を外し、メモリ電池ケーブルを引き抜きます。この際、ケーブルを引っ張るのではなく、コネクタをつかんでから引き抜いてください

新しいメモリ電池をケーブル押さえ用バンドで収容部に固定後、コネクタにキチンと差込みます。

本体パネルを装着します。

注意

- ・装着向きに注意し、必ず所定のコネクタに差込んでください。
- ・ケーブル押さえ用バンドによるメモリ電池の固定位置は、下図の通りに実施して下さい。固定位置が異なると周辺とぶつかる恐れがあります



15.2 アフターサービスについて

(1) 保証書(別に添付してあります)

保証書は販売代理店や最寄の営業所からお渡しますので、購入日などの記入事項をお確かめになり、内容をよくお読みの上、大切に保存して下さい。

保証期間は、ご購入の日から1年間です

(2) 故障等で修理を依頼される時は、15項のFAQの点をお調べの上、なお異常と判断された場合は、販売代理店や最寄の営業所にご連絡下さい。

< 連絡していただきたい内容 >

ご住所・ご氏名(事業所)・電話番号

ご購入日(保証書をご覧下さい)

故障内容・異常な状態(できるだけ詳しく)

ご訪問希望日

(3) その他ご不明な点は、販売代理店や最寄の営業所にお問い合わせ下さい。

16.FAQ

No.	項目	質問内容	回答
	回線関連	ピンク回線や専用線等、電話回線以外の回線は使用可能か？	電話回線以外は使用できません。ISDN 回線を使用したい場合は、CD7D 主装置(ISDN)を購入して下さい。
		PBXに収容可能か？	極性反転信号が得られるPBXであれば収容可能です。
		ISDN 回線接続時、U 点を接続できるか？	S/T 点接続のみサポートしています。DSU は別途購入して下さい。
ガイドホン機能		連絡先が話中や応答しない場合、どのような動作になるか？	屋外電話機からは「ただいま連絡しております...」のガイダンスが連続で送出されています。登録されている宛先完全にダイヤルし、連絡先が応答しない場合、ガイダンスが停止してしまいます。もう一度呼び出したい場合、一旦受話器を元に戻してから行います。
		屋外電話機の受話器が外れたままで動作に支障はないか？	屋外電話機の受話器が外れたままの場合、一旦受話器を元に戻さないと連絡できません。連絡先から呼出電話機を呼び出す場合、屋外電話機スピーカから呼出音を送出できます。通話したい場合は、一旦受話器を元に戻してから再度受話器を上げると通話できます。
		どの屋外電話機も使用していないのに使用中ランプが点灯している場合、なにが原因なのか？	センサー-通報中、テレコン中、システムデータ設定中が考えられます。
		連絡先を即座に呼び出したいが、どうすればいいか？	システムデータ A90 を変更することにより、約4秒短縮可能です。ISDN 回線収容時は、システムデータ A93 を変更することにより、約5秒短縮可能です。
		屋外電話機の呼出ボタンを押して「ただいま連絡...お待ち下さい」のガイダンスが1回出た後、連絡しないのはなぜか？	連絡先の電話番号が未設定です。
インターホン機能		屋外電話機から屋内電話機を呼出しても、だれも応答しない場合、どうなるのか？	屋内電話機を所定時間呼び出しても不在のため応答しない場合、システムデータ A72 を変更すると、所定時間呼出した後に連絡先へ自動ダイヤルします。
		屋内電話機の受話器が上がったままで、屋外電話機から呼出があった場合、どうなるのか？	呼出信号は屋内電話機のスピーカから送出されます。通話する場合、一旦屋内電話機の受話器を元に戻してから再度受話器を上げると通話できます。
		屋外電話機の受話器が外れたままで動作に支障はないか？	上記同様問題ありません。
		屋外電話機の呼出ボタンを押しても、屋内電話機を呼出さないのはなぜか？	主装置のインターホンランプが点灯していることを確認して下さい。点灯していなければ、インターホンモードに切替して下さい。
センサー-通報		例えばセンサー-1が動作中に、またセンサー-1が動作した場合、どうなるのか？	センサー-動作中に同一センサーの入力があった場合、その入力は無視されます。センサー-通報終了後であれば、その入力は有効です。
		センサー-通報時、その通報を誤って子供や老人が受けて、即切ってしまった場合、どうなるのか？	通報メッセージを最低1サイクル聴取しないで切った場合、再度通報を行います。
		通報先が留守番電話や FAX の場合、どうなるのか？	主装置は人が応答したのか、機械が自動応答したのか判断できません。自動通報機能を持った機器が接続されているところへは通報しないで下さい。
		110番や119番へ通報できるのか？	110番等は特殊な回線ですので、通報できません。
		センサー-通報時に屋外電話機の受話器が上がった場合、どうなるか？	当該屋外電話機スピーカから「ただいま使用中です...」が送出されます。
		センサー-通報時に屋内電話機から屋外電話機を呼び出した場合、どうなるか？	屋内電話機の呼出ボタンは受け付けません
テレコン機能		連絡先から呼出しても自動応答しない場合、なにが考えられるか？	主装置が接続されている電話番号が相違していないか、主装置の配線は問題ないか等を確認する必要があります。
		自動応答はするがテレコンできないのは、なにが考えられるか？	暗証番号が設定されていないと、自動応答はしますがテレコンは出来ません。
		外部スピーカを ON したままテレコンを終了した場合、どうなるか？	テレコン終了と同時に、外部スピーカは強制的に OFF します。
モード切替		例えばガイドホン機能にて呼出中にスイッチボックス等でモード切替を行った場合、どうなるか？	それら動作中にスイッチボックス等での切替は無視します
		スイッチボックスのボタンを押してもモードが切り替わらないのはなぜか？	スイッチボックスのランプが点灯していれば、配線は正常です。ボタンは0.5秒以上押しつけて下さい。
		市販切替スイッチを接続したがモードが切り替わらないのはなぜか？	配線/スイッチ出力の論理、及びシステムデータ A95 の変更内容を確認して下さい。

システムデータ 設定	設定 SW を設定側に切替えても、設定ランプが点灯しないのはなぜか？	他動作中には設定ランプは点灯せず、設定もできません。他動作終了後に実施して下さい。
	設定したシステムデータが消えていた。	設定SWを設定側にしたまま電源を入れると初期値が書込まれます。また設定途中(設定SWが設定側)に電源を切った場合、仮登録していた内容は正式登録できません。
	システムデータを設定できないのはなぜか？	電話機は屋内電話機コネクタ(INTEL)に接続されているか確認して下さい。
停電動作	5時間待機とはどんな状態か？	通電状態で通報・連絡等一切行われなない状態を待機状態といえます。途中でセンサ入力があったり、屋外電話機を操作した場合等は、保証時間を下回ります。
	長時間停電等で停電/メモリ電池が放電した場合、登録しているデータはどうなるのか？	録音したメッセージは消去されます。宛先番号等のシステムデータは主装置内の不揮発性メモリに蓄積されていますので、消えることはありません。
工事・保守	呼出電話機/スイッチボックスの配線延長は何mまで可能か？	ループ抵抗は 40 Ω 以内にして下さい。長さは使用する線材により変動します。
	電池は何年毎に交換するのか？	停電/メモリ電池とも3年毎に必ず交換して下さい。
	停電/メモリ電池は充電された状態で納品されるのか？	いずれも充電された状態では納入されません。所定時間充電後、運用開始して下さい。
その他	屋外電話機を増設可能か？	TBU((オプション)を実装すると最大4台まで増設できます。屋内電話機は増設できません。
	CD6N で使用していた屋内/屋外電話機や周辺装置は、主装置に収容可能か？	屋外電話機のみ収容可能です。また CD6 増設装置や表示機は主装置に収容できません。
	電源スイッチをOFFにしても電源ランプが点灯しているが、どうすれば消えるのか？	電源スイッチを OFF にしても、停電電池は接続された状態になっています。本体パネルを開けて、停電電池を抜くと電源ランプは消灯します。
	メモリ電池はいつ動作するのか？	電源スイッチ OFF や AC100V 断および停電電池完全放電後に動作を開始します。約48時間、録音音声をバックアップします。